

潜在的移住者等受入基盤調査報告書

平成 2 7 年 3 月

たかしま市民協働交流センター協議会

目 次

第1章 調査の目的と方法

1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 本書の記述に関する留意事項	2

第2章 調査結果 アンケート調査

1. 活動分野	3
2. 構成員数と年齢層	4
3. 活動範囲	6
4. 活動のスタイルと頻度	6
5. 対象者と社会的課題	7
6. 必要としている情報	9

第3章 調査結果 ヒアリング調査

10

第4章 調査のまとめ

36

資料

第1章 調査の目的と方法

1. 調査の目的

高島市では、平成26年度から平成28年度の3ヵ年、(一財)地域活性化センターの助成を受け、移住・定住に関する推進体制整備支援事業を実施している。この事業の推進にあたり、高島市における市民および市民活動団体による移住・定住に関する受け入れ態勢についての基盤を明確にする目的で本事業を高島市より受託、実施した。

なお、市民活動団体については、直接的に移住・定住に対する事業を行っている団体のみを対象とするのではなく、市民による地域のつながりや豊かな生活に役立つ、多様な活動を行う団体を把握するために、多様な活動分野を調査対象とした。

この調査により得られた団体の情報は、可能な範囲でインターネット上に公開し、移住・定住支援と連携を図りたい。

2. 調査の方法

(1) 調査対象

たかしま市民協働交流センター登録団体(平成27年1月現在184団体)から下記の分野で活動する団体および市民を抽出した。さらに、移住・定住市民会議において調査対象団体として提案された団体および市民を加え、100団体を調査対象とした。

1. 移住前相談(市民活動団体および市民)	9団体・市民
2. 子育て支援	6団体
3. 子どもの体験	9団体
4. 学童保育	6団体
5. 若者の活動	3団体
6. 女性の活動	2団体
7. 男性の活動	4団体
8. 防災活動	3団体
9. 障がい児・者の活動	10団体
10. 高齢者の活動	5団体
11. 環境保全等活動	11団体
12. 歴史・文化・観光に関する活動	16団体
13. 国際交流・協力	2団体
14. ボランティア活動	7団体
15. 地域経済活性化活動	3団体
16. 市民活動支援	4団体
計	100団体・市民

※調査対象団体のうち、3団体は複数の事業を実施し、事業別に調査対象としたため実際の対象団体は97団体

法人等の内訳

NPO法人	16団体
社会福祉法人	5団体
その他の法人	5団体

(2) アンケート調査

高島市内の対象団体の活動範囲や体制、対象や取り組む社会的課題などについて明らかにすることを目的に調査を行った。

調査方法：質問紙郵送法

実施期間：平成27年1月9日～2月25日

督促：電話

発送：100団体

回収：85団体・市民

未回収：15団体

(3) ヒアリング調査

移住前相談に対応している団体・市民を対象に、移住前相談に関する事例の把握、相談後の対応、移住促進のアイデアを得る目的でヒアリングを行った。

また高島市は子育て世代を最も移住・定住を促進すべき対象としていることから、子育て支援、学童保育実施者等を対象に、移住後の保護者同士や地域とのつながり、子育て世代が求める情報などについて把握する目的でヒアリングを行った。

調査対象：移住前相談対応団体・市民	7団体・市民
子育て支援団体	4団体
子どもの体験団体	1団体
学童保育	4団体
計	16団体

(4) 調査実施者

本調査の実施は、下記の2名により行った。

坂下靖子（たかしま市民協働交流センター 事務局長）

佐山恭一（調査データ整理）

3. 本書の記述に関する留意事項

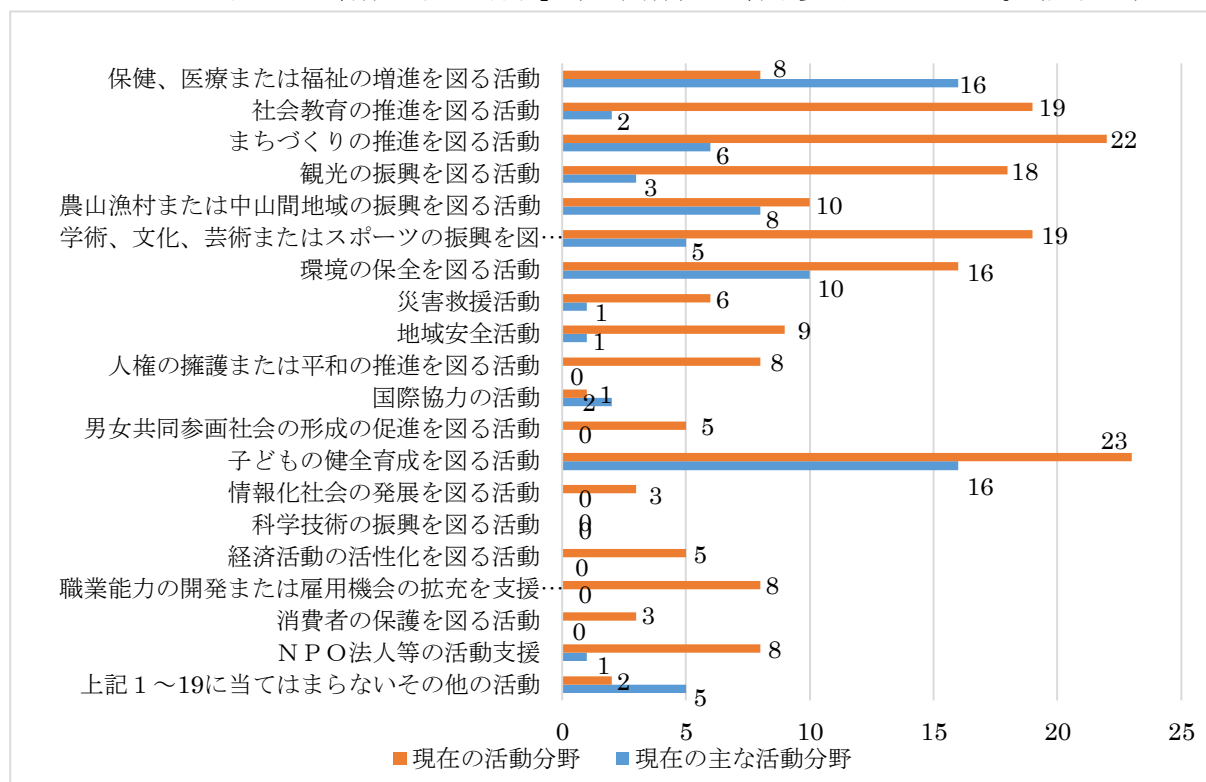
本書における記述に関する留意事項を以下にまとめる。

- ・特定非営利活動法人については、便宜上「NPO法人」と記述する。
- ・図表中の“n”は、有効回答数を示している。

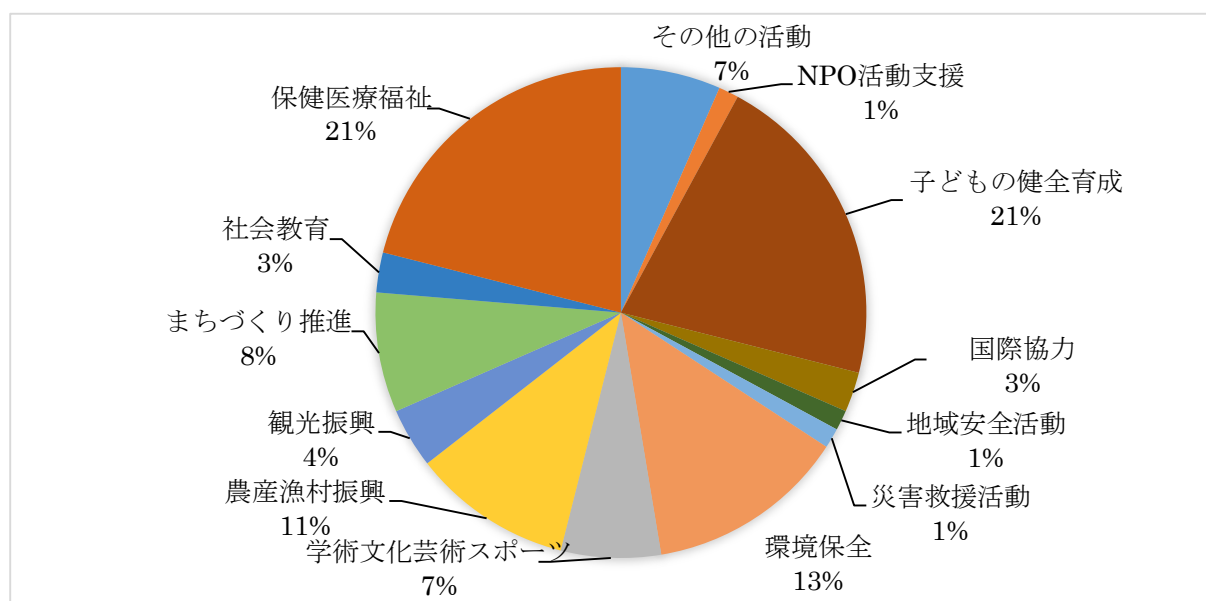
第2章 調査の結果 アンケート調査

1. 活動分野

活動分野については、現在の主な活動分野では「保険、医療または福祉の増進を図る活動」と「子どもの健全育成を図る活動」（16 団体）が最も多く、現在の活動分野では「子どもの健全育成を図る活動」（23 団体）が最も多くなっている。（図表 1）



図表 1. 現在の主な活動分野と現在の活動分野（団体数、n=80）



図表 2. 現在の主な活動分野全般（%、n=80）

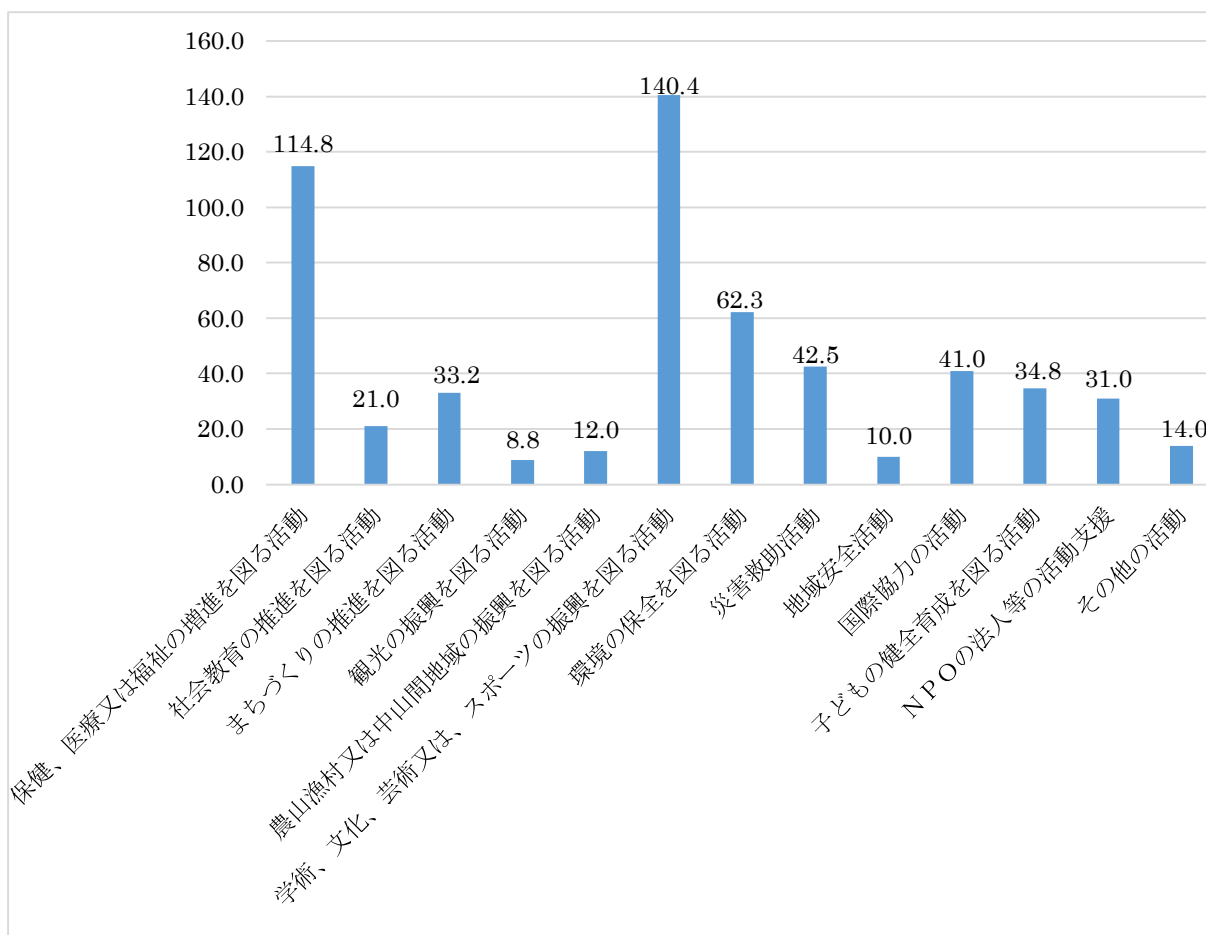
滋賀県のNPO法人調査結果¹⁾では、主な活動分野で最も多いのが「保険・医療または福祉の増進を図る活動」(39.8%)、次いで「まちづくりの推進を図る活動(11.4%)となっている。本調査では、「保険・医療または福祉の増進を図る活動」および「子どもの健全育成を図る活動」(21%)が多い。(図表2)

2. 構成員数と年齢層

(1) 構成員数

団体の構成員数は、平均が63.9人である。また、活動分野別で構成員の平均を見ると、「学術・文化・芸術」の分野が突出して多くなっている。これは、高島市文化協会の構成員数が1450人と突出しているためである。この数値を除いた場合の平均値は、47人である。滋賀県のNPO法人の正会員数(個人)の平均は35.0人¹⁾である。

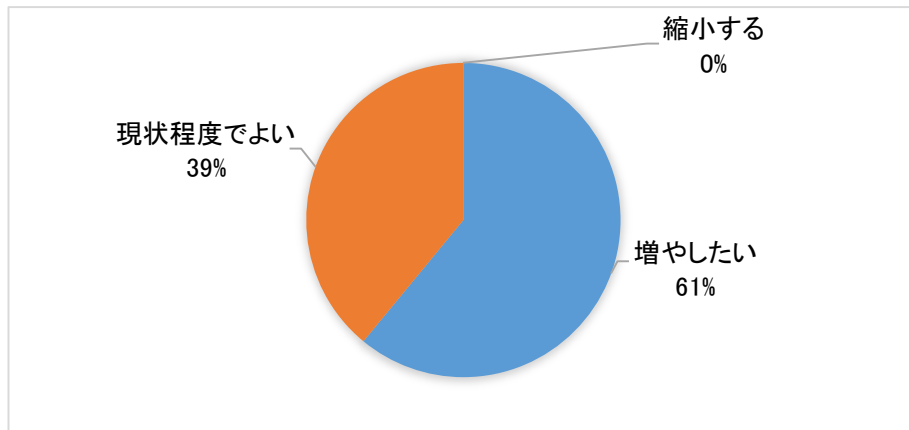
	n	最小値	最大値	平均値	中央値
団体の構成員数	83	1	1450	63.9	22



図表3. 分野別構成員平均(人、n=83)

1)「平成23年度滋賀県NPO法人実態および支援ニーズに関する調査」(<http://data.ohmi-net.com/pdf/npochosa/2012ShigaNP0genjochosa.pdf>)2015/02/27より引用

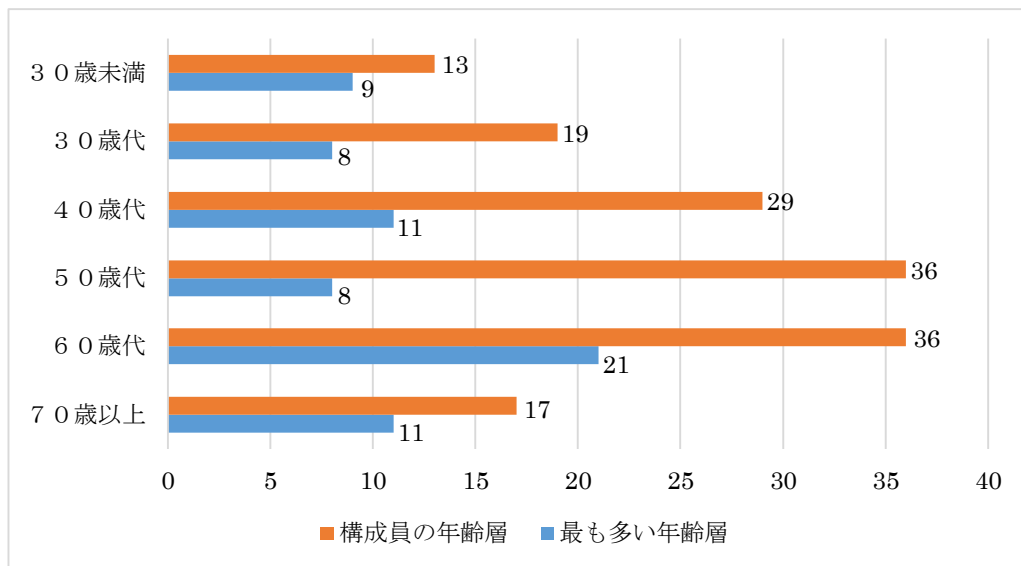
今後の構成員の見込みについては、半数以上の団体が増やしたいと回答している(61%)。



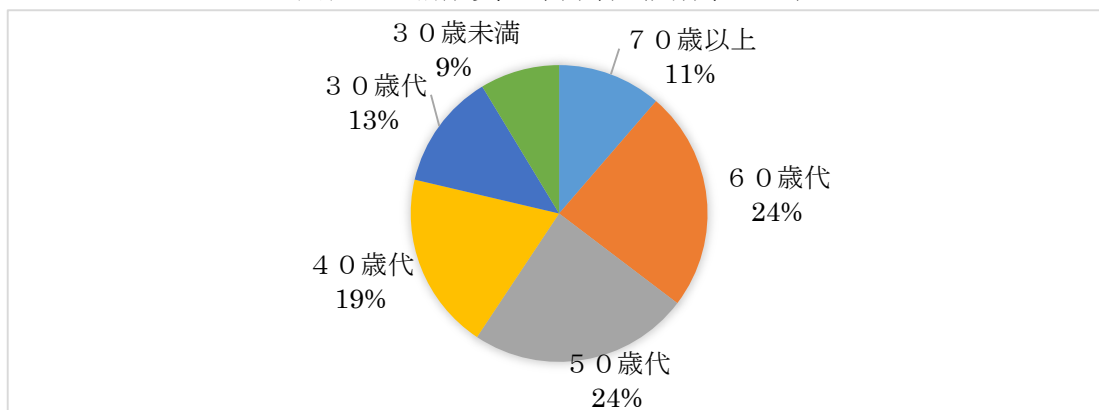
図表 4. 今後の構成員の見込み (%、n=82)

(2) 年齢層

最も多い年齢層が「60歳代」の団体が最も多く 21 団体 (31%) である。(図表 5)
また、構成員の年齢層では、「60歳代」「50歳代」が最も多く 24% である。(図表 6)



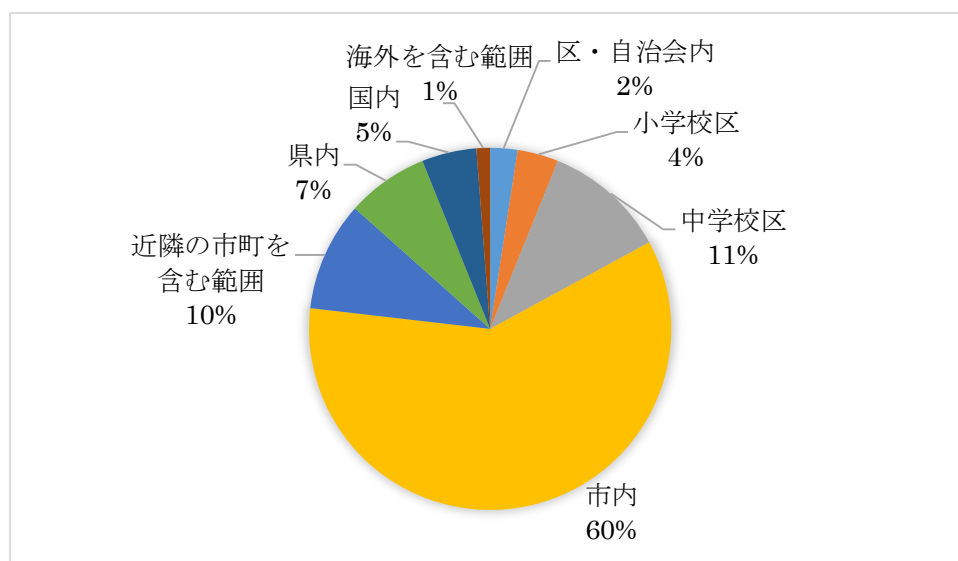
図表 5. 構成員の年齢層 (団体、n=82)



図表 6. 構成員における最も多い年齢層の割合 (%、n=82)

3. 活動範囲

主な活動の範囲は、60%の団体が市内で活動している。次いで、中学校区で活動している団体が多い(11%)。(図表 7)

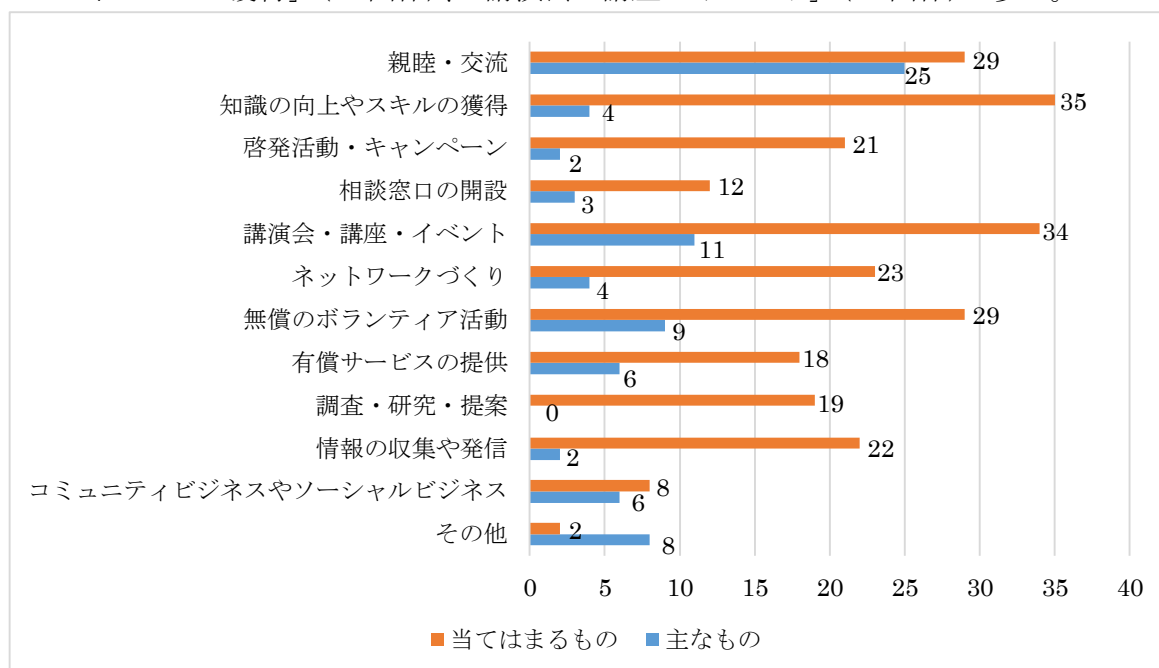


図表 7. 主な活動範囲 (%、n=82)

4. 活動のスタイルと頻度

(1) スタイル

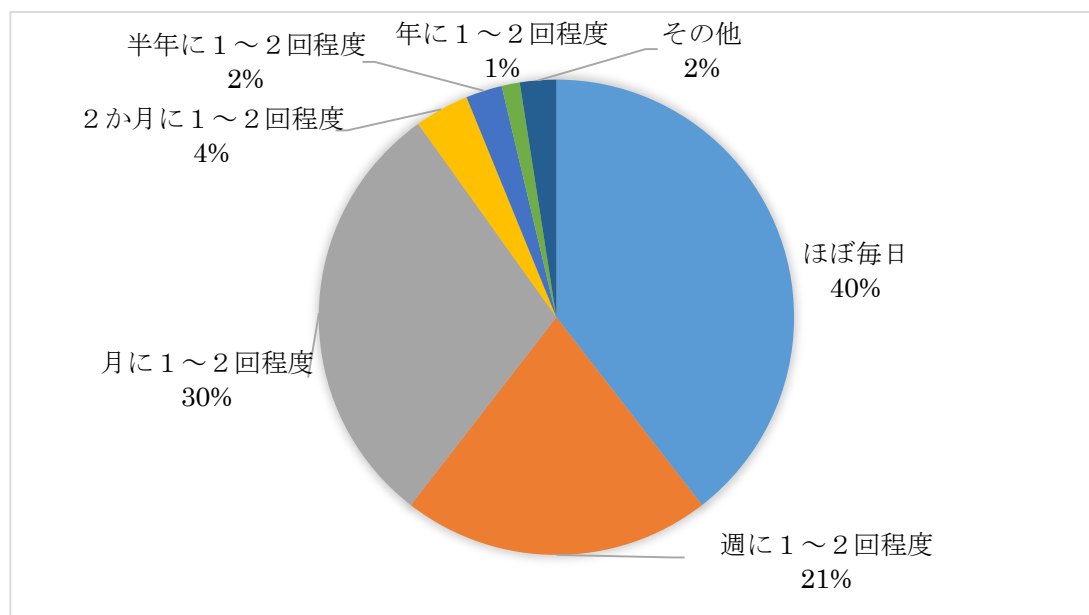
活動のスタイルで、主なものとして最も多いのが「親睦・交流」(25 団体)、次いで多いのが「無償のボランティア」(11 団体)である。当てはまる活動では「知識の向上やスキルの獲得」(35 団体)、「講演会・講座・イベント」(34 団体)が多い。



図表 8. 活動のスタイル (団体、n=80)

(2) 頻度

活動の頻度は、「ほぼ毎日」活動している団体が最も多い(40%)。次いで、「月に1～2回程度」の団体が多い(30%)。(図表9)

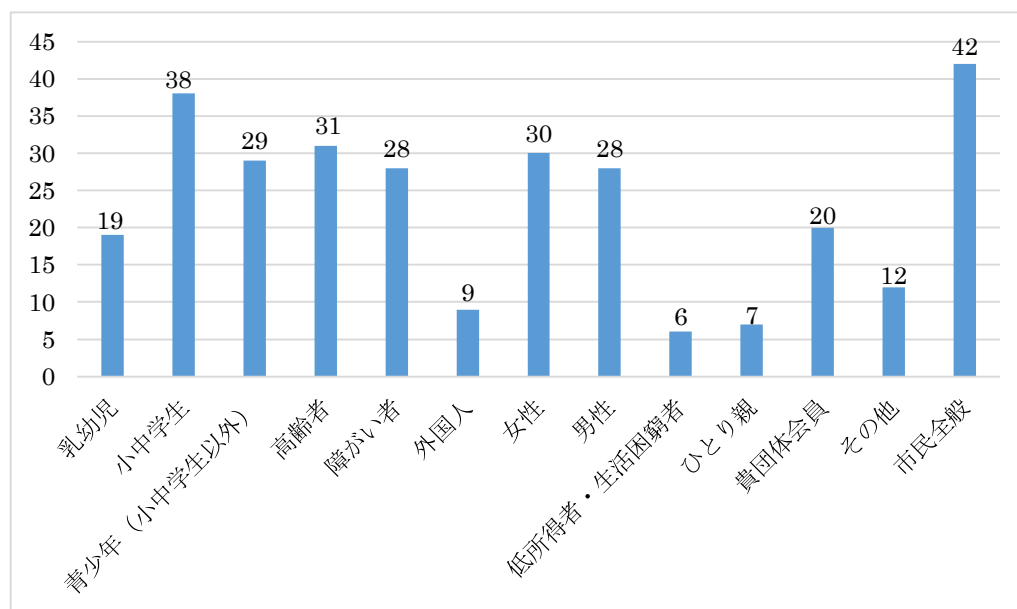


図表9. 活動の頻度 (%、n=81)

5. 対象者と社会的課題

(1) 対象者

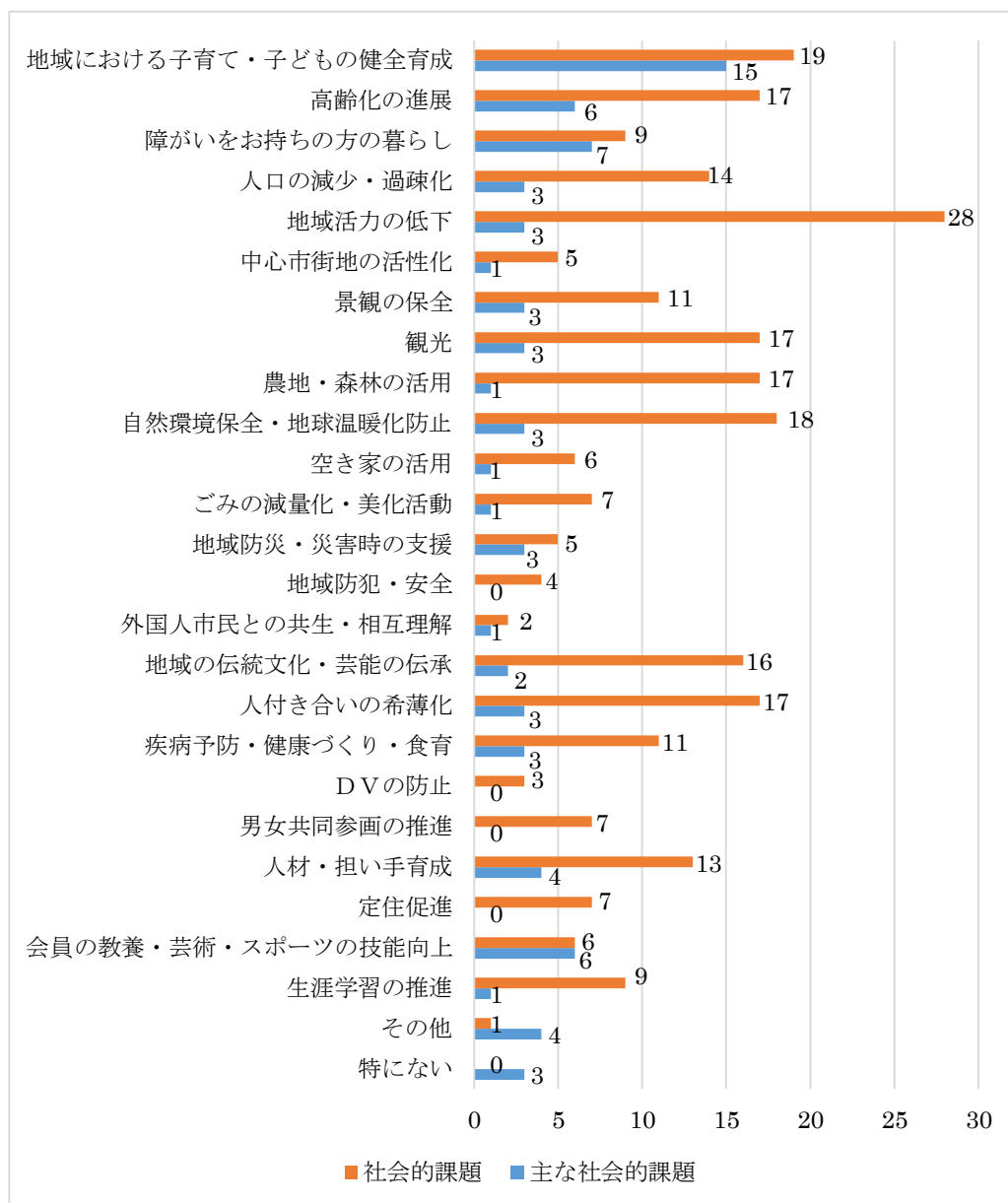
対象者は、市民全般が最も多く(42団体)、次いで、小中学生を対象としている団体が多い(38団体)。



図表10. 取り組みの対象 (団体)

(2) 社会的課題

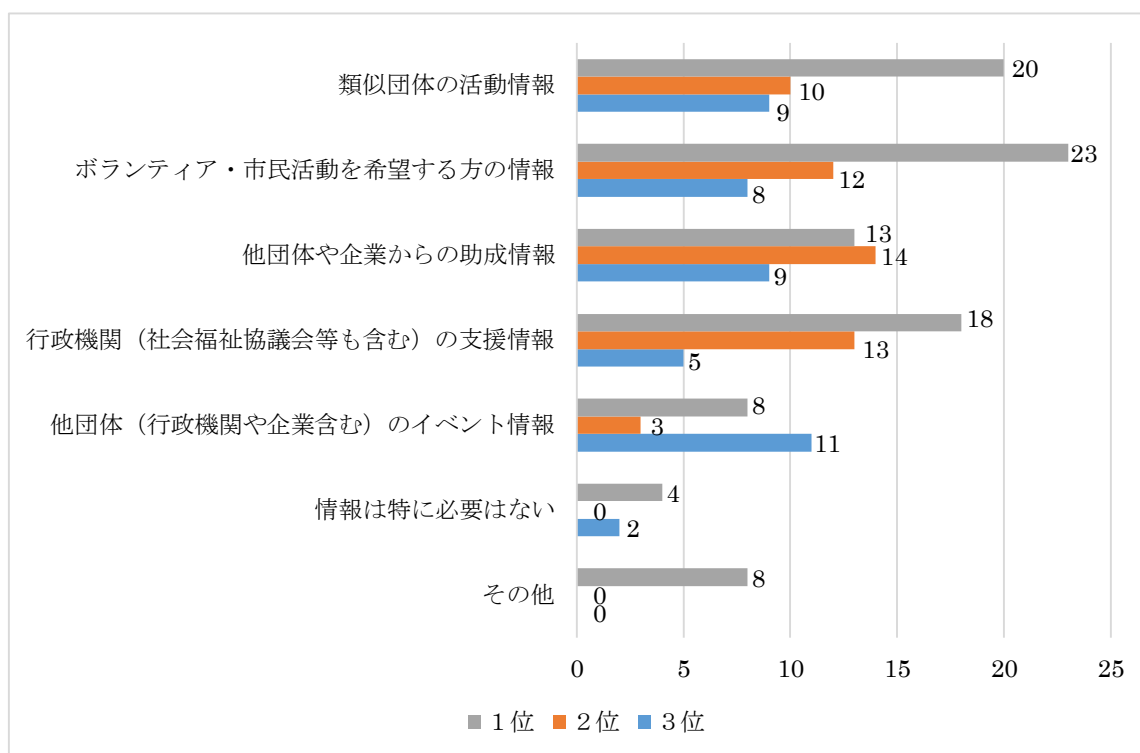
取り組む社会的な課題では、主な社会的課題として「子育て・子どもの健全育成」が最も多い（15 団体）。また、取り組む社会課題として「地域活力の低下」が最も多く（28 団体）、次いで「子育て・子どもの健全育成」（19 団体）、「自然環境・地球温暖化」となっている（18 団体）。（図表 1 1）



図表 1 1．取り組む社会的課題（団体、n=81）

6. 必要としている情報

活動のために必要としている情報では、1位で最も多いのが「ボランティア・市民活動を希望する方の情報」である（20団体）。2位で最も多いのが「助成情報」（14団体）、3位で最も多いのが他団体のイベント情報（11団体）となっている。（図表12）



図表12. 必要としている情報（団体）

第3章 調査結果 ヒアリング調査

アンケートで回答された、「貴団体の活動を続けてきてよかったと思うこと」、「若者の定住を進めるために、貴団体でできること」およびヒアリング内容は下記のとおりであった。
※団体のナンバーはアンケート調査票のナンバーを付けている。

1.

【活動を続けてきてよかったこと】

当団体の活動を通じて、高島市に関心を持ち、移住された方が地域活動等に参加し、高島で幸せに暮らされている様子を見ること。当団体の活動により移住された方同士や地域の方とのつながりが生まれネットワークが広がり、新しい事が生み出されること。イベントなどに高島で暮らすことや、働くこと、仕事を作ることに興味のある方が来てくださること。様々な素晴らしい新しい出会いがあること。

【若者の定住の為に】

滋賀県や高島市、その他の様々な団体と連携し、移住促進のための活動をしています。

2.

【活動を続けてきてよかったこと】

集落の維持活性化の為、こうした形で活動せざるを得ないので、このやり方(集落営農)を選択した。今後更に幅広い活動に繋がることが出来ればいいと思う。

【若者の定住の為に】

現在、集落の担い手として活動してもらっている。組織の中に入って地味ではあるがしっかりとした考え方をもとに、なれない中で先輩の指導やJA等の指導を受けて頑張ってくれている。

【ヒアリング】

移住者に必要なのは「仕事」。椋川では、家については紹介することができる。集落では若い人に入ってきてほしいと考えている。農業は、自分で生産、販売などをできる人ならばやっていける。椋川農産では、雇用は限りがある。林業は若手人材が必要であり、林業を希望する人がいれば、森林組合につながることもできる。資格取得が必要。冬期(1～2月)の収入を確保できるかも重要。

3.

【活動を続けてきてよかったこと】

家の改修期間から地域の自治会に入り、地元の方と交流していたので、地域ではあたたかく迎えてもらっている。地域にあるお寺には檀家として入っていないので、お寺の行事には参加していないが、掃除や人手の要る事では声をかけてもらったら参加している。共有財産などについては触れていない。例えば、大津市の和邇辺りでは、自治会に入ることと共有財産の権利とは分けているらしい。

【若者の定住の為に】

地域に空き家はあるが、貸したがない、売りたいがない。よく分からない人に入居されることへの不安はあるだろう。高島に魅力を感じて住みたいという若い人は、まず賃貸のアパートやマンションに住み、地域の活動に参加し、地域の人とつながりを作り、そこから古民家などの紹介をもらうようにすればよいのではないかと。空き家紹介の制度は良い。行政からも地域へもっとアプローチしてはどうか。

【ヒアリング】

市長は市のセールスマンとして高島市で暮らす魅力を発信してほしい。マスコミが「おもしろい！」と関心を示す事で引き付ける工夫をしてはどうか。例えば、三日月知事が木之本町から1週間通勤する事が話題となったが、朽木の生杉や針畑、今津の棕川から冬の暮らしを体験しながら通勤してみると、注目が集まると思うが。

4.

【若者の定住の為に】

団体ではありませんが、自宅古民家再生に取り組んでいます。体験談を話すことや、少々のアドバイスはできるかもしれません。湖東地域で綿花栽培と茶づくりに関わっています。

5.

【活動が続けてきてよかったこと】

農業体験をとおして高島の良さを発信できること。四季を通じて何度も遊びに来られる方、家族が増えていること。市内の方と協力して家庭の生ごみを農園で堆肥として活用したり扇骨業から出る竹粉を堆肥やマルチに使うことで地域内の資源循環が少しずつできていること。無農薬、無化学肥料栽培の野菜や平飼養鶏の卵のファンが増えていること。

【若者の定住の為に】

有機農業を志す方への相談対応、農業研修としての受け入れができる。

【ヒアリング】

相談に来る人の多くが、具体的な移住のイメージが無い感じを受ける。なんとなく農業をしたいという人には、一定期間農業に従事してみる機会があってもよいのではないかと。当農園で研修受け入れは可能。

6.

【活動が続けてきてよかったこと】

地域の魅力発信と他地域の魅力発見を通して、この地域の向かうべき姿、必要とされる形を考えながら活動してきたこと。

【若者の定住の為に】

地域の伝統文化を継承した仕事を展開し雇用を作り、共にこれからを作り上げていく事業等。農業に

関する相談も受けることができます。

【ヒアリング】

農地バンクのような仕組みがあると貸し手も借り手も安心して借りられるのでは。

7.

【活動が続けてきてよかったこと】

- 1、市の農産ブランド認証度、消費者への発信力の増大
- 2、道の駅等の開設←売上及びリピート客の増加
- 3、市及び地域に対する協力等（CSR 企業と連携活動）
- 4、テレビ及び新聞等の報道により PR 効果

【若者の定住の為に】

名刺にも書いているように「無農薬有機農法」を志す若者の就農を応援しております。高島や市外から移住する若者達へ実質的に「生計が立てられること」＝「儲かること」を実証しながら、「講座と現地教育」を実行したい。ただ、現行の本市の若者定住制度については見直していただく必要がある。

【ヒアリング】

有機農業の講師として、移住者や地元の農家に指導している。従来の農法では農家は生き残れない。有機農業の地域という特徴づくりが必要と考える。農業をやっている若い人、新規就農した人、勤めながら農業する若い人に、現場へ出向いて有機農業の土作り、輪作の工夫、土や気候に合わせた指導をしたいと考えている。特に農業では「3K」（くさい、きたない、きつい）を軽減することが必要。そのような作業の工夫も伝えたい。農業でも成功モデルが必要。新たな事に取り組むことを嫌う土地柄。成功モデルがあれば広がる。生産者自身がフェイスブックなどを使って発信することも大事。おいしいもの、安心安全な栽培について、自ら発信して市場を作る努力が必要。

若者の移住には、基本的に生活にどれくらい経費がかかるのか、単身か家族ありかでも異なる生活スタイルのパターンを作る。企業や雇用の場を整理することも必要。自治会長などに若者の移住を進めたいという市の意向が伝わっていない。

8.

【活動が続けてきてよかったこと】

生きもの田んぼで、取引先や消費者に田植え、稲刈り、生きもの調査体験などをしてもらい、生産現場だけではできない、出会いと人のつながりができ、消費者の声も聴くことができた。市内の他の活動団体とのつながりができた。水田と周辺の生物多様性が増えてきた。有機農業の生産者、生産面積が増えてきた。（今後、高島の子どもたちと都市部の子ども達と一緒に水田や水のつながりを感じられる体験ができればと思う）

【若者の定住の為に】

農地の紹介は地元の者が仲介するとつながりやすい。米づくりのサポートはできる。地元では、新しい

人の受入れに消極的と感じる。

【ヒアリング】

最近では地元の人間同士のつながり、交流も少なくなっているのを感じる。（子ども会活動、自警団、青年団などの活動が減少）新しい人が入ることで、地元の人の中にも交流とつながりが生まれると良いのではと感じる。農地については、行政による農地バンクなどの仲介では、土地を遊ばせる期間が発生するのではという懸念がある。立地条件の厳しい農地で、獣害柵などを整備して農地希望者につなぐことは過疎対策にもなるのではないかと。

9.

【活動が続けてきてよかったこと】

一年を通して人のつながりが増えてきている。地元の人と移住者の接点が増えてきているのが実感できてきた。まち（都市部）へ作家さんの作品を発信でき、まちから人が来てくれている。県外とのつながりができ、高島への移住希望の声も聞こえてきた。地域の魅力を都市へ発信する拠点になってきたのを感じている。

【若者の定住の為に】

大学生を対象に、空き家をシェアハウスとして使える仕組みを作りたいと考えている。成蹊スポーツ大学や成安造形大学は高島から十分に通学可能。安く住めることは魅力になると思う。「高島に住む良さ」（地域の人や祭りなどに関するなど）を感じて住んでもらいたい。地域側にも学生を受け入れ、巻き込む仕掛けと仕組みが必要。学生受入には仲介者が必要。地域での住み方も伝える必要がある。家主も地域も安心できる仕組みがある。モデルができれば広がる可能性があると考えている。大学生にヒアリングしてみたい。

【ヒアリング】

移住希望者からは住む場所（空き家）や職について相談を受けている。60～70代の方は別荘的な住まい、古民家などを求めている。20代後半～30代の方は、職があれば住みたいと言われる。

10.

【活動が続けてきてよかったこと】

シングルの方が転勤で他市と高島市を選ぶ際に、ファミサポがある高島市を選ばれた事例がある。シングルファーザー・息子・祖母の3人暮らしの方から、調理のサポートに入らせていただくことにより、まかせて会員にも楽しみながら参加され、私達の活動も理解してくださり、広報写真の協力や急なキャンセルにも快く理解して下さり、長年続けてくださっている。

【若者の定住の為に】

移住してきた人でも、地域に助けてもらえる人がいなくても、私達がお手伝いすることが出来る。

【ヒアリング】

移住者には家の情報が重要。古民家を改修して住む人は特殊。子育て世代は、賃貸の庭付き一軒家

でOK。広い庭で遊ばせたいという声を聞く。移住前に保育園情報を知りたいと連絡してくる人が多い。保育園情報は、電話での問い合わせもあるが、多くはインターネットのSNSやブログに掲載されるお母さんからの情報を集めていることが多い。行政の紹介では実態が分からない。例えば、新旭ははだし保育で床暖房があるとか。それぞれのメリット、デメリットなどは、ネットでの掲示板で、お母さん同士のネットワークに尋ねれば答えてくれるような場があればいい。高島で子育てをと考えて移住された方は高島のイベント(森林体験や川遊びの体験など)に何度か参加して移住を決められている。イベント情報は様々な手段で発信されている。移住定住についても情報発信は重要。高島らしい暮らし方のパンフレットなどには、普通の人も掲載してほしい。古民家改修して住む人は少数。むしろサラリーマンで通勤しながら賃貸の家やアパートに住みながら、高島の自然の中での子育てを楽しみたいという人が多い気がする。

11.

【活動を続けてきてよかったこと】

活動への理解が進んだ。市内で活動している団体や個人とコラボしての事業が出来るようになった。企業に活動を理解してもらいやすくなった。高島市のブックスタート事業に全面的に関わっている。事業(クリスマスコンサート・夏のキャンプ・絵本原画展)を楽しみにしてくださる市民が増え、「〇〇はいつするの?」とお声かけいただけるようになった。仲間がいるからこそ、10年以上続けられて、絵本を介して、人とのつながりを実感できる。市外からもお話会や講座の依頼がある。

【若者の定住の為に】

設立当初からの夢である常設型活動拠点としての絵本美術館の開館が実現すれば絵本大好きな人が高島に観光として訪れるようになり、絵本で新たな雇用が生み出せる。

【ヒアリング】

私自身、自然豊かな所で子育てしたいと移住した。地域につながって生活している実感を持つことができた。里山キャンプに参加した孫とおばあさんがおられたが、この方は高島にセカンドハウスを持っており、その後、当会の主要メンバーとなられた。当会のイベント(里山キャンプ)などが、高島に来るきっかけになり、心に残る思い出になってほしい。「子どもの声が響くまち」になってほしい。子どもも地域での役割があり、地域とつながりがあることで、たくさん地域との思い出ができることが大事。高島は絵本に出てくる自然の体験や生き物、農の風景が身近にあり、知識と実体験が直結する、贅沢な地域。人のつながり、野菜や味噌など物と文化のつながりがある。高島に住む人が高島の魅力に気づいてほしい。

12.

【活動を続けてきてよかったこと】

子ども達から元気がもらえる。子どもとの距離が縮む。子育ての相談を受けて、お母さんの安心する顔が見られる。

【若者の定住の為に】

地域で仕事が無い。電車が止まる。この2点の解消が必要。

【ヒアリング】

市内の様々な事業などに託児を準備されることで、保護者も参加しやすい地域だとアピールできる。

14.

【活動が続けてきてよかったこと】

公にない民間の良さがあり、多くの人達が長年に渡って集ってくださること。赤ちゃんからご老人まで、障害の有無に関わらず、どなたでも集っていただけること。集ってくださる方を中心に決める事、構える事、働きかけしない事(口出し手出しなし)。多くの人の中に入れたい方には、個人的に来ていただけること。自然の中で昔の生活、昔の食べ物をいただきながら話すことで本音が出たり、リラックスしていただけること。囲炉裏の火を眺めながらゆっくりしていただけること。集って下さる人たちの発表の場であったり、仲間作りの場であること。炭作業に(精神障害のある)当事者さんも参加し、地域の人たちと普通に交流されたり、働きかけになっていること。

【若者の定住の為に】

県外からの学生さん、若い人達が集って下さり、高島の良さを話しています。寄里藍で「お見合い」はいかがでしょうか？例えば自然の中、囲炉裏を囲み、昔を感じながら、昔の食べ物をいただき、語り合ったり炭作業を経験していただくことができます。

【ヒアリング】

寄里藍の集まりからお母さん同士の自主的な集まり(サロン)もできた。安全な食や自然体験に関心の高いお母さんが人づてで集まっている。第1月曜日は親子サロン、第3月曜日は精神的にしんどい人の集まり。精神的に生きづらさのある人はいつでも来て、話して行かれる場になっている。最近、国境炭焼きおやじの会の活動にもそんな人が参加してくれている。道の駅追分峠で、炭を使って餅を焼いて販売しているおばあちゃんたちに混じって、生きづらさを感じている人も手伝い、働く場と居場所になっている。

15.

【活動が続けてきてよかったこと】

今年度より定期的な子育て広場の活動を始め、リピーターも少しずつ増えてきており、地域で子育てや子どもの育ちを見守って行く場として根付いてきている。

【若者の定住の為に】

活動することによって高島市は子育てが安心してできる場所、子育てしやすい所という認識を持ってもらい、高島市へ若者が移り住む、または今住んでいる若者を市外へ流出させないことにつながるという。

16.

【活動を続けてきてよかったこと】

自分が最も希望するスポーツの現場で働くことができ、仕事内容に満足している。子ども達へスポーツを指導する機会が多く、私自身が子ども達からたくさんのエネルギーをもらうことが出来、心身ともに充実している。

【若者の定住の為に】

スポーツの現場で働きたいと願う若者は少なくありません。しかし、クラブの財政上、既存の職員にも給与面で負担を強いている部分もあるため、今後はクラブの財政面を強化していくとともに、若者の雇用を生むことで定住者を増やしていきたい。

17.

【活動を続けてきてよかったこと】

イベント開催を通じて生産者と参加者が共に笑顔で何かを感じてくれていることが一番うれしいです。

【若者の定住の為に】

私達の活動は直接定住促進に影響があるようなスタイルでは無いのと思いますので、特にはありません。しかし「地域の魅力を発掘する」というコンセプトが地元を愛する心を育み、また、メディア等を通じて市外の方に高島の魅力を印象づける事が出来たらと考えています。

19.

【活動を続けてきてよかったこと】

派手な衣装を着て、非日常的な事をする事でストレス発散にもなり、グループ内、他グループとの交流ができ、輪が広がって良かったです。

20.

【活動を続けてきてよかったこと】

続けてきて良かったことは、友達の輪が広がったこと、趣味の無かった人や運動が苦手な人でも楽しめる事です。よさこいがきっかけで性格があかるくなったり、もっと頑張ろうと思えたりして、自分や他の人にとっても良いものになりました。年齢層が広くていろんな話が出来て楽しいということがありました。目標を持てる事がとても嬉しいです。なので、私たちは、このよさこいを続けてきて良かったと日々実感しています。

21.

【活動を続けてきてよかったこと】

2010 年に結成され、高島市を元気付ける為、市のお祭りや行事(オープニング)に参加し、その場を盛り上げる事ができました。今では 70 名近くの子供達が元気・勇気・笑顔でチアリーダーとして活動を頑張っています。

22.

【活動を続けてきてよかったこと】

少女たちが元気に活動している姿を見ていると活動続けてきて良かったと思います。少女たちばかりでなく、大人も楽しみ、次世代につないでいけたらいいと思います。

【若者の定住の為に】

他地域で活動していた方も高島へ来られて、参加していただいています。高島で活動をしていることを発信し、アピールすることが大切だと思います。

【ヒアリング】

移住して来られた方は、保護者同士のつながりの機会にもなっています。

23.

【活動を続けてきてよかったこと】

子供達の自主性を育てる事に主たる活動の目的としていますが、あまり結果を伴っていません(指示待ちがなおらない)

24.

【活動を続けてきてよかったこと】

地域の都市化に伴い、高島市今津町やマキノ町でも、核家族家庭が増え、共働き家庭やひとり親家庭では、子ども達の放課後が留守家庭になり、安心安全な放課後が保障されない状況にありました。不審者や熊などの出没による環境不安もありました。そのような環境要因で 10 年くらい前から学童保育の利用が急増してきました。また、障がい児の放課後についても同様でした。法人としては障がい児と健常児の共生をうたい、活動をしてきましたが、当初は職員と保護者の思い違いや子ども達の活動にも幅が広がらなかったり、施設についても移転の繰り返しもありましたが、活動を継続してきたことで、ようやく地域で「学童保育」や「障がい児と健常児の共生」が認識され、利用者の増員と共に、職員雇用についてもワークシェアリングを取り入れたりしながら、雇用者数も増えてきました。若い世代の職員も落ち着いて従事しています。事業も放課後児童健全育成事業は 4 か所になり、日中維持支援事業も追加しました。将来の展望も行政と協働して広げていけるように思います。今後も利用者さんはじめ、理事や行政、地域の社会資源を有効に活用させていただき「子どもたちや子育て中の保護者」「障がい児」「ひとり親家庭」「虐待された子ども達」「虐待をされて育ってきた親世代」「他地域からの転入に伴い不安を抱えな

から子育てしている家庭」「不登校や引きこもり経験のある若者」等々、それぞれの困り事をいち早くキャッチしながら、支援し、活動していきたいと考えますし、法人の使命でもあると認識しています。

【若者の移住の為に】

法人の関連事業や活動の幅を広げていくと、子ども・若者に関わる事業内容が主なので、職員として、今後も若者の採用が可能になります。また、若い親世代が安心して子育てができる環境整備を行政、社協と協働し、子育て中の家庭の受け入れ態勢を構築していきます。

【ヒアリング】

移住して来られて4年目のお母さんが、学童に出会って知り合いができるまで、「生きている」感じがしなかったと打ち明けてくれた。発達障害があることを学童から相談センターや病院につながり診断されたが、それまでは分からず、孤立感を深めていたらしい。当所は発達障害のある児童生徒への対応経験が豊富。高島市内全域でどの学童でも障害がある児童の受入れができるようにしたい。昨年度「高島市学童保育指導員連絡協議会」を立上げ、指導員のスキルアップと情報の共有を目的に研修等を行っている。子育て世代の移住を増やすためにも学童保育所と指導員の充実が重要。

25.

【活動が続けてきてよかったこと】

これからの活動が、より子ども達の親御さんの支えになるようにしていきたい。学童の保護者の方だけでなく、幅広い職種の方から客観的に考えを出していただけるようになった。

【若者の定住の為に】

直接、何が出来るかは分かりませんが、本団体の活動を充実し、学童保育所をより豊かなものにして、保護者(市民)の方が安心して預けられるような場所であるよう働きかけていきたい。

【ヒアリング】

入所体験のお母さんのコメント「実家は関東にあり、自分達は高島を選んで来た。子育てしやすい地域のイメージがある。」「のんびりした地域」「地域の雰囲気が好き」「自然の中でのびのび育てたい」とのこと。学童の保護者は20～40代。年代の異なる保護者は子育ての先輩でもあり、話をすることで子育ての見直しになったり、安心感が持てたり、親同士のつながりの場にもなっている。7:30～19:00の預かりで、お迎え制にしているが仲が良い親はお互いにお迎えを融通したり、預かったりしている。学童保育は、高島で子育てをしたい方で、大津、京都、守山、栗東あたりで仕事をする人を支える仕組みで。安心して子どもを預け、預かれる場を提供したい。働く親のセーフティネット。シングルの親にも重要な場所。指導員の身分が不安定で給与も低い。子育て世代を重要視するのであれば、指導員の安定雇用も重要。

26.

【活動が続けてきてよかったこと】

施設の活動を通じて多くの、他の活動団体および市民の方々と繋がりを持つことができ、その中から情報やイベントへの協力等をしていただき、「人と人」の人脈ができた。

【若者の定住の為に】

若者の定住となると当団体では難しい。雇用の場を設けるには行政や企業の協力が必要と思います。

【ヒアリング】

駅前の地域に子育て世代の新住民が多い。親世代ができなかった自然体験を子ども達にさせたいと思っている方が多いと感じる。当学童保育では子ども達は自然の中でのびのびと遊ぶことができる。

28.

【活動が続けてきてよかったこと】

子ども達の放課後の安心・安全が確保でき保護者が安心して就労出来る。

【若者の定住の為に】

学齢期の子どもを持つ保護者が安心して就労できる環境を提供する事。

29.

【活動が続けてきてよかったこと】

地域児童の成長を見守り、実感できる事。

【若者の定住の為に】

保護者が安心して働きに出られるよう、保育サービスを提供する。

【ヒアリング】

当園の利用者のほとんどが地元の方。一部に自然環境のよさに惹かれて来られた家族がある。当園の特徴として、食物アレルギーを持つ子どもへの対応をしており、母親同士のつながりで当園の取り組みを知り、入園してこられた方がいる。重度障害児童の受け入れをしていることも、保護者のネットワークで知っていただき、利用いただいてる。子育て世代の移住のためには、子どもが安全に遊べるのが大切。市内の保育園が地域を越えて選べるのに、小学校は学区で決められている。一部の子どもにとっては地域を越えて学校を選択できる方が安心して通学できる場合もある。保育、福祉の分野では人手不足が恒常的にある。この分野の人材確保のためにも処遇の改善が必要と感じている。

30.

【活動が続けてきてよかったこと】

子供の体験活動、障害のある子も無い子も一緒に活動する。高齢者の健康づくり教室、毎週3教室実施。

【ヒアリング】

高島市は、高島の資源として自然環境の良さや地域の人とのつながりがあり、安心して子育てできるところ。という発信ができていないか疑問。移住して来た人から十分に意見を聞き、高島の魅力を発信するべき。地元で生まれ、生きてきた者は地域の資源、自然の豊かさに気づきにくい。移住してきた人と地元の人とお互いに話し、交流する場によって、お互いの見えない部分への気づきがある。互いの知力を活かす必要がある。特に、子ども達の体験では専門農業者と連携し、年間を通じた農業体験をすれば高島の特徴となる。親にとっても大切な体験の場になる。高島は、生活に密着した体験をしながら、子どもが成育できるということを特徴として打ち出すべき。高島市内の各地で農業と連携して子どもの体験が取り組まれると、高島の特徴になる。

31.

【活動を通じてきてよかったこと】

活動の中で地域の方々と交流する機会が多くあり、自分達の感性で作ってきたイベント等が受け入れられ、喜んでもらえるが高島市に自分達若者の居場所がしっかりあると思えて嬉しい。

【若者の定住の為に】

ただ仕事に明け暮れていたり、楽しみを見つけられない若者の精神的な居場所、仲間の提供。支援と言えるほど大それた事は出来ないが、一緒に日々を頑張る仲間にはなれると思います。

32.

【活動を通じてきてよかったこと】

平成20年度から続けている、婚活イベントは今年で9回目となる。毎回カップルの成立率も高く、その後の経過については、確認は取っていないが、わかっている所で3組が結婚されている。このイベントの目的である、結婚→出産と高島の人口増への手助けが出来ていて良かったと思われる。

【若者の定住の為に】

どのような形で若者の定住に繋がるかわからないが、何かの手助けになればと考えている。(子育て支援・・・子どもしごと体験、マタニティーコンサートと園児の音だしイベント)

33.

【活動を通じてきてよかったこと】

当事者が元気になって行く姿、同時に親との(特に父親との)関係性が好転し、家族のだんらんが回復していく姿をみることに。

【若者の定住の為に】

古民家での居場所(サロン)、カフェ(中間就労の場)農業体験等を通じて、当事者の自立の為に施設運営を手掛けたいが、親と元気になった当事者だけでなく、福祉ボランティアに関心を持つ若者の参加を受け入れ、共に生きる、共に育つ形で進められるとよいと思う。

34.

【活動が続けてきてよかったこと】

安心安全な食を通して、何かやりたい人や情報を探している人が繋がり、自分も含め、関わってくださった方々の活動の幅が広がった事

35.

【活動が続けてきてよかったこと】

地産地消・地域で食文化の伝承・食の安全

【若者の定住の為に】

高島ならではの伝承料理の実習を通して、高島の良さ・文化を知る機会づくり

36.

【活動が続けてきてよかったこと】

高齢者会員が生きがいを感じ、活発になってきた。

37.

【活動が続けてきてよかったこと】

友人が増えたこと。ゴミ減量化推進。地域の子供達との交流。各人の活動の輪が広がって行く

【若者の定住の為に】

即、役に立つ様なことは無いですが、年齢を重ねても生きがいを持てる活動が色々有る事が考えられるような町づくり

38.

【活動が続けてきてよかったこと】

健康ハイキング(年 2 回春秋)、市の広報で参加者募集 50~100 名、本年 4 月に 18 回目となる。大好評です。夏祭り等のイベントに参加しカレーを提供、回を重ねるごとに美味しいと喜んでもらっている。働く女性の家でクリスマスケーキ作り、お父さんと子どもに作り方を指導。子ども達の喜ぶ姿をみていると元気がもらえる。今後も続けていきたい。

40.

【活動が続けてきてよかったこと】

防災・減災等の活動を経て区・自治会とのつながりが深まった。また、日々の活動、18 号災害での災害VC活動で行政各団体等とのつながりが深まった。

【若者の定住の為に】

災害ボランティア・防災活動を通じた中での地域の魅力の発信

41.

【活動を続けてきてよかったこと】

私達の活動目的が「減災」なので、大きな災害発生時に私達の活動の効果測定をされることとなります。その時、皆さんの日頃の「備えと構え」が見えてくると思います。起こってほしくはないが必ず起こる大災害時に続けてきて良かったと言えるよう、これからも一生懸命努力していきたいと思っています。※なまずの活動を通して、多くの人に出会い、つながり、お互いを高めあえたこと、また自分達が災害に対する意識・智恵を高める中で絆が出来た事は大変嬉しいです。

【若者の定住の為に】

あるかもしれませんが、なかなか、これが・・・、これだ・・・、と言うことに行きつきません。個人的にはまず、中学生・高校生といった若い子どもが市外の学校へ出ていくということを止めなければいけないと思います。市内の高校をもっと魅力ある学校にすることが、一番すべき事だと思います。学校教育と福祉が魅力あるものになれば、若者の定住と市外・県外方の移住者も増えると思うのですが……。 ※市内に大学が無いので、外へ出ますが自分の地域に魅力があれば帰ってくるようになると思います。

43.

【活動を続けてきてよかったこと】

サロンに参加する事によって精神に障害を持つ方々の入院の頻度が減った。サロンに来ることによって、仲間が多くなり、外出する機会が多くなり、楽しみになった。活動に対して当事者の方々の自主性が出てきた。当事者さんの数が徐々に増えてきている。

【若者の定住の為に】

近年精神的に悩みをもっている方々が増えてきている。肉体的な障いではなく、表に現れない分、社会の方々に理解されず、本人・家族の方々の苦しみは大きなものと思います、誰もがお互いを理解し、助け合って生活できるように、また、「気軽に参加され、閉じこもる事なく、サロンに来ていただけるように」、参加者、皆さんと話し合いを増やし、大勢の人に喜んで頂ける活動を目指していきたいと思っています。

44.

【活動を続けてきてよかったこと】

当法人を設立した目的は、高島市内に暮らす障害のある方の働く場所・仕事を作り出すことであり、4年が経過する現在、25 人の方が当事業所を利用していただいています。これから先も多くの方に利用していただき、障害者の就労支援を支える事が出来ると良いと思います。

【若者の定住の為に】

障害者福祉の仕事を目指す若者を雇用していくこと。

45.

【活動が続けてきてよかったこと】

精神障害者家族会です。障害が発生するのが、主に20～30代にかけて。突然パニック状態になり、入院するという形態をほとんどの方がたどっておられます。退院して在宅になり、引きこもりが続く方が、支援機関の働きもあってB型作業所に通所できるようになり、社会の一員として笑顔のある生活をしていく姿を見て、たくさんの事を教わっています。現在、一歩でも家から出て社会に参加が出来る手助けを共有していくことにやりがいを感じています。

【若者の定住の為に】

- ① 障がいを持つ方たちと共に、安心して暮らせる街にするために地道に社会参加する姿を見て、定住を促したいと思います。そのためには関わる人たちが安心できる生活保障の実現と考えられます。
- ② 高島市にある自然の地域を生かし、山・水どこにもない恵まれた環境を活かしつつ、発展をのぞみます。

46.

【若者の定住の為に】

就労先の確保・高島市の魅力を伝えるイベント等への参画

47.

【活動が続けてきてよかったこと】

マキノ町、朽木、今津と高齢者、障害の方等の支援をさせていただいておりますが、益々ニーズが高まってくることだと思っています。施設から在宅に向けたサービスも重要となってくると思います。「あなたの所があってよかった」との声を聞く時、制度の間で苦しんでおられる方のお役に立てた時などに喜びとやり甲斐を感じる仕事です。誰かに必要とされる限り、続ける事が社会的責任の一つであると感じています。

【若者の定住の為に】

福祉サービス事業の担い手として、若い人材を必要としていることから、採用活動と人材育成に力を入れています。高島市内の方の雇用の場となるように、また、市外、県外からの若者も積極的に採用し、高島に住んでいただくようにしています。また、空き家の問い合わせ等も入ってきますので、知る限りの情報と繋ぎをすることも時にありました。空き家や若者が安く住める場所（公営住宅）の使用について検討されるべきかと思っています。

49.

【活動を続けてきてよかったこと】

平成 13 年から活動を始め、小 3 だった息子も青年となりました。「放課後休日の学童」として始めたこの活動も、今はどちらかと言うと青年の憩いの場、また、母親の井戸端会議的な場となっています。1 人や親子だけなら、しり込みしてしまう所や活動も皆でわいわいがやがやと、ちょっと迷惑かけてもお互い様で活動出来ている事は良かったなと思います。

【若者の定住の為に】

障がいをお持ちのお子様、青年の方がおられる場合、一緒に話し合ったり、お話を聞いて気持ちを少しでも楽になれば・・・と言うことくらいでしょうか？

52.

【活動を続けてきてよかったこと】

「アート活動を通し、地域の中に障がい者支援の”わ”を広げる」を活動の目標として取り組んでいます。少しずつですが、地域の様々なイベントに参加させていただき、ワークショップ等を行いながら多くの方々と話をする機会も増してきています。今後は、障がいのある人もない人も共にアート活動を通し、同じ場所で同じ時を共有することができるよう活動を進めていきたいと思っています。

【若者の定住の為に】

メンバーの中には、京都から参加してくれている社会人、学生がいます。定住まではいかないですが、高島市へ多くの方々がこられる事は嬉しい事だと思っています。これからも高島市内はもちろん市外へも「活動に参加して下さい」とアピール等はしていきたいと思っています。

53.

【活動を続けてきてよかったこと】

核家族化による家族間の繋がりの希薄化、ご近所付き合いの減少等により、高齢者世帯が増加し、生活支援が必要な高齢者に対する支援が足りなくなっています。私達のグループはその方達のお役に立つ事が出来ればと、自分達のできる事を無理しない程度で生活支援を続けています。訪問先で支援活動をする事で皆さんに喜んでいただき、私達も逆に一杯元気をいただいています。高齢者の方達だけでなく、ボランティアをしている私達の為にもこの活動を続けていきたいと思っています。

【若者の定住の為に】

特にこれと言ってありませんが、若い方達がこの地で住む為の生活面でのアドバイスができるかもしれません。

54.

【活動を続けてきてよかったこと】

利用者及びその家族が通所を喜び、入院されたり、他の施設を利用（ショートステイなど）しても、早く退院して当施設に復帰したいとリハビリに励み、機能回復される方が多い。幼児や障害のある子ども達にとって、他の施設を利用できない時のセーフティーネットになり得ている。（例：学童保育、入場時の一時預り）

【若者の定住の為に】

介護の現場を見聞きして、福祉の心を学んでもらいたい。

55.

【活動を続けてきてよかったこと】

地域が少しずつでも良くなっていった事。感謝されたこと。問題提起ができているところ。

【若者の定住の為に】

- ・仕事の提供。
- ・働きやすい環境作り
- ・社会資源の一つとしてネットワークに入る。（参画できる）

56.

【活動を続けてきてよかったこと】

高齢者の交流

【若者の定住の為に】

地域住民との交流推進

57.

【活動を続けてきてよかったこと】

高齢者の生きがい作りと社会参加が目的であり、就業を通じて健康で生き生きと活躍される姿を見て、当団体は存在意義、活動に満足しています。

【若者の定住の為に】

第一次産業と関わる農林業は経験者がおり、若者定住の希望者であれば、指導者としての応援は出来る。

58.

【活動を続けてきてよかったこと】

活動を続けることで、源流の森に関心を寄せてくれる市民が増え、多くの市民の後押しにより、県の琵琶湖森林づくり条例の改正につながった。

【若者の定住の為に】

住宅の提供は必要(マンションやアパートでもいいのでは)。安曇川以南なら、京都は通勤圏。通勤できる若い人が住めるのでは。京都・大津へ通勤する人は移住できるのでは。自然が好きで湖西に住みたいと思う若い夫婦や若い人が通勤しながら住めればいい。「高島に住みたい」と感じる人を呼び込みたい。

【ヒアリング】

高島の魅力を感じる人を呼び込むと良い。高島の魅力とは何か。「人のつながり」「多様な市民の活動がある」「風景のよさ、自然の豊かさ」など、高島の魅力に価値を置く人をひきつけることが大事。それには、都市農村交流など出会いや交流を広げることが必要。高島に魅力を感じて移住する人は、湖西線の本数云々が判断材料ではないのでは。

59.

【活動が続けてきてよかったこと】

活動として、まだ十分とは言えないかもしれないが高島市民も含め、多くの人に知ってもらい、その素晴らしい自然環境を楽しんでもらえるように尽力したい。

【若者の定住の為に】

職員として雇用する事が移住促進に寄与すると考えるが、団体の経営状況からは、それも容易ではないのが現状。若者の定住には安定した一定以上の所得ということも考慮しなければならないだろう。

60.

【活動が続けてきてよかったこと】

春に桜がきれいに咲いて、皆に喜んでもらえること

61.

【活動が続けてきてよかったこと】

マキノの素晴らしさを紹介できたこと。京阪神から繰り返しマキノへ来てくれる人たちが出来た事。

【若者の定住の為に】

マキノを知ってもらうための体験を提供する事ができる

62.

【活動が続けてきてよかったこと】

今津町内の自然、特に木々や花(江戸彼岸・カキツバタ・彼岸花・蕎麦・ザゼンソウ)を市の宝として守りながら、市内外の方々に広く知っていただく活動に参加(ボランティアとして)し続けてこれたこと。観光の側面も担ってきたと思います。

【若者の定住の為に】

自然に興味のある若者の力を自然環境保全の為に調査、研究をはじめ、苗木の育成等に力を借りたいと思います。

63.

【活動が続けてきてよかったこと】

トレッキングでは事前に登山道の整備や道標の赤ランプを取り付けたり、環境保全に年間 25 日以上ご参加下さる方も数名あって、安心して楽しんでいると思う。ツアー行程に道の駅や観光施設に寄るが、お土産購入や地域の人々と交流いただいていることが良いと思う。荒廃した竹林(ゴミの山)は宝(環境学習の場)に变身。子どもから高齢者まで地区内外を問わずご参加くださり、保全活動を継続している。リピーターも増えている。活動目的は地域交流創出。エコツーリズム推進、食育の推進だが、食育推進がメニューを豊富にし、大人には懐かしい、子どもさんには新鮮な体験となっているようで、心弾ませ楽しいんでいただいている。地域のたくさんの方々のご指導・ご協力があったことが嬉しいです。

【若者の定住の為に】

竹林再生整備体験と数多くの出会いと恵みを体験していただくエコツアー

64.

【活動が続けてきてよかったこと】

①その成果は取るに足りないほどの微小なものであるが、本会の目的である自然環境の保全・資源循環型社会の構築に、皆が心を併せて取り組むことが出来た。②本会は「いまづ自然観察クラブ」、「高島地域みずすまし推進協議会」、「びわ湖田んぼを結ぶ連絡協議会」など、自然に関わるそれぞれの組織に関り、それぞれの活動内容を活かして増幅させることができた。

【若者の定住の為に】

若者が定住するためには、経済的に安定できる生活基盤が何よりも必要であるが、残念ながら本会の活動はそれが皆無である。ただ、若者が本組織内で一定期間活動することにより、高島の自然の魅力を体験的に感受する事が可能である。

65.

【活動が続けてきてよかったこと】

四季を通して(冬季は雪の為縮小するが)各種の花を咲かせ掃除もすることで、町を訪れる人や通行する人々も心を和ませて声をかけてくださる人もあるので、やっていてよかったなあと思います。

【若者の定住の為に】

何も思いつくこともありませんが、地場産業や農産物の開発や観光にも力を入れて住みよい街づくりが出来ないでしょうか？

66.

【活動を続けてきてよかったこと】

活動 8 年目に入るが、桜の樹勢も回復してきており、咲く桜が多くなってきた。活動を通じて地域の人々と交流が出来、共通の意識を持つ者が、集まり楽しみながら作業できる。

67.

【活動を続けてきてよかったこと】

食の自給的暮らしは、田舎暮らしの中では、古くからありましたが、エネルギーの自給については、それまで考えたことが無かったテーマだと思います。しかし、原発の事故以降は、考えなければいけないが、どうしていいのかわからなかったと思います。そういう中で、エネルギーも石油、原発、人頼みでなく、自然資源の活用で、暮らしの中で自給が可能だと理解を進めたことは、私たちのささやかな運動の成果と言えるのではないかと思います。そして、具体的に薪のある暮らしの啓発、普及をしていますが、エネルギーの自給と言う視点は、暮らしだけでなく、地域資源の活用という視点、循環型社会をつくること、地域活性化、地域の自立と言う新しい視点に広がり、可能性が見えてきたかと思います。さらに、今進めている市民による小水力発電所が、地域にもしできると、本当に地域の自立の大きな飛躍が生まれます、水のエネルギーとしての活用という新しい利用により、多くの可能性が見えてくることは確実です。食、エネルギー、ケアという、人が暮らす上で重要不可欠なものを自給する視点を、それぞれの暮らしから、地域へと広げていること、そして、参加するメンバー自身が、無理のないところから、具体的に自給を始めるきっかけになり、楽しくて参加するメリットもあることが、良かったのだと思います。

【若者の定住の為に】

都会ではなく、いなか・地方で暮らしたいという思いを持つ方は、自分で野菜を作り、自給的な暮らしをしたいという方が多いです。私達も、食・エネルギー・ケアの自給を、暮らし・地域で進める為の情報交換、啓発活動等をしたいと考えていますので、メンバーになっていただければ、いろんな繋がりを活かして、田舎暮らしを充実させる事が可能かと思います。

68.

【活動を続けてきてよかったこと】

当事業は県内全域で、生物多様性の普及、啓発活動に取り組んでおります。毎週、観察会を開催している中で、身近な自然の新しい発見をし、もっと知りたいと思われる方が多く、参加者のほとんどがリピーターになってくださった事が、活動を行っていて良かったと思います。

【若者の定住の為に】

滋賀県高島市ならではの豊かな自然を、観察会を通してアピールし、この地域に興味をもってもらう。

69.

【活動を続けてきてよかったこと】

旧今津郵便局の清掃・保全・補修活動を通じて会員の皆さんの気持ちがまとまっていること。

【若者の定住の為に】

旧今津郵便局を拠点として、今津中心地区の活性化活動を進めます。高校生を中心とした若者とも協働の活動が続けることで、地元への愛着心を育みたい。一度は大都市に移っても、やがて１ターンしてくれる若者に期待しています。

70.

【活動を続けてきてよかったこと】

市民や今津を訪れる人々に(観光客含む)今津の歴史や、見どころを案内する為に、会員が知識の習得に励んだ事が、会員の生きがいになりました。今津を訪れた人たちが、ただ素通りされるのではなく、今津の良さを充分知って、喜んで帰られること。

【若者の定住の為に】

活動の1つとして自然環境保護にも励んでいますが、住みよい子育てに最適な地域である事をアピールしたいと思う。

71.

【活動を続けてきてよかったこと】

地域子ども(小中学生)との交流

【若者の定住の為に】

地域の魅力の発信

74.

【活動を続けてきてよかったこと】

・国内・地域関係者との交流 ・メディアとの交流

【若者の定住の為に】

ガイドとしての地域雇用

75.

【活動を続けてきてよかったこと】

高齢者中心のコーラスグループですが、歌の好きな人が月3回練習しています。結成されて25年経過して、高齢化に伴い、退会者が多いのですが、新しい人も少しずつ加入され楽しい時間を過ごしています。最近では市制10周年京都高島交流コンサートに参加したり、文化祭出演やNHKの花は咲くに応募して放映される等、機会があれば外部のイベントも参加しています。

【若者の定住の為に】

高齢者のグループであり、若者に直接働きかけることはありません。

78.

【活動が続けてきてよかったこと】

趣味の集まりでの活動ですが、吹奏楽(音楽)を通じて長年に渡り、様々な年齢や職業の方たちと交流ができています。また、当団の演奏会を開催したり、市民祭のステージや企業さんや自治区のお祭り等に呼んでいただき演奏させていただくことで、より多くの方とふれあえ、喜んでいただけ、この団で活動する喜びとなっています。

79.

【活動が続けてきてよかったこと】

発足から5年たちますが、メンバーも40人を越え、小学生から孫のいるものまで幅広い年齢層で日々活動が来ています。依頼演奏も年々増え、今年は自分達だけで演奏会を開けるまでに成長できた。

【若者の定住の為に】

学生を卒業しても音楽を続けられる。市内に数々の楽団はあるが、日々の活動メンバーの交流、依頼演奏など地域で一番勢力的に活動していると思います。

80.

【活動が続けてきてよかったこと】

昨年末の定期演奏会では、マキノの少年少女合唱団、コスモス会(合唱団)とのコラボもあり、300名を超える入場者でにぎわった。団員の数は伸び悩んでいるが、演奏の内容は向上していると思う。

【若者の定住の為に】

間接的には、若者の文化・音楽の発表の場として、発信できるかも・・・

81.

【活動が続けてきてよかったこと】

我々の団体はジャズや音楽が好きな趣味の合う人たちの集まりです。世代を越えた付き合いができ、異業種の話も聞け、世間が広くなるという所が良いところだと思います。また、社会的地位や職業に寄る差も無く、皆が同じ高さの目線で楽しめるという良さがあります。

【若者の定住の為に】

一緒に演奏したいひと。(特に若い人)は大歓迎

82.

【活動を続けてきてよかったこと】

人と人の交流が生まれた事

83.

【活動を続けてきてよかったこと】

文化活動によって、仲間づくり等が出来て孤立感が解消でき、また、情報交流、知識、技能、技術交流・交換がすすみ、目、手、頭(脳)を使うことで心身の健康保持にもつながり、市の健康福祉にも寄与していると考えます。

【若者の定住の為に】

クラブに加入していただくことで、少しでも可能かと思われます。

85.

【活動を続けてきてよかったこと】

在住外国人の言語上、生活上の支援ができた。小中学校への出前授業により、異文化理解、多文化共生の足がかりが児童・生徒に培われた事

【若者の定住の為に】

海外からの移住者、定住者への支援はできますが、はたしてそれが若者かどうかは不明。

86.

【活動を続けてきてよかったこと】

青少年育成に対する活動なので、結果はすぐには現れないけれども、確実に人材が育成され、その人材がこれから社会を担っていくことを思えば、とても期待される。そして、その人材を通して、また、新たな人材が育成されていくので、それが必ず社会を変えていく力になると感じています。

【若者の定住の為に】

働く場の提供していけるように、今、基盤作りをしている過程です。

87.

【活動を続けてきてよかったこと】

手話サークルというと、手話を覚えるとか勉強するということに中心が動きそうだが、サークルとして長く続け、聴覚の障害を持つ人々との交流だけでなく、種々の障害を持つ人や、個性のあるいろいろな人々との触れ合いであたたかい。学びがあると実感できたこと。集う楽しみが見えてきた。

【若者の定住の為に】

サークルは、気楽にどなたでも参加できるので、サークルメンバーとふれあって優しい心に触れてほしい、参加はどなたでも歓迎です。

88.

【活動を続けてきてよかったこと】

少しずつではあるけれど、人の繋がりが広がっていること。障害のある方々と実際に接して思っていた以上にいろいろな事を自身の力でなさっている事を知ることができたこと。 本当に必要な支援ができているのだろうか考える機会を得られたこと。

【若者の定住の為に】

構成員が高齢者ばかりなので、という思いがありますが、音訳や朗読に関心のある方がいらっしゃれば、一緒に学び障害のある方々に声の情報をお届け出来ればと思います。

89.

【活動を続けてきてよかったこと】

活動を通じて、高齢化が進む現社会において、ますます元気な活力あふれるシニアの方々との交流の機会に恵まれたことかとお思います。

【若者の定住の為に】

若い人たちが安心して働けて子育てもできるよう、高齢者との関わりの中でサポートしていけるかと思います。例えば若い働くご夫婦の為に、お子さんの一時預かりや幼稚園、保育園などへの送迎を行う等が活動に含まれています。

90.

【活動を続けてきてよかったこと】

本会を通じて、一人ひとりが何かのボランティア活動を行う事を発信できた。

【若者の定住の為に】

高島市のこども園を外部に発信し、安全で安心して施設内で過ごせる環境、自然豊かな環境を PR して若者・若い人達が定住できる環境作りを目指している。施設内の草刈り活動や子どもの見守りを通じて応援できるかと思っています。未来を担う子どもたちの安心、安全を守る活動を進めたい。

93.

【活動を続けてきてよかったこと】

幼児・小学校低学年、老人を対象に公演を実施しています。一番、真剣そのものは保育園、幼稚園児で私達も楽しく嬉しくなります。周りにいる人たちに優しく思いやりを持って成長してほしいと願っています。また、老人の方々には、元気でこの会場に来られた事を喜び、みなさんの笑顔で私達も幸せになります。だから 26 年続けて来られたし、現在 340 回講演した事になります。

【若者の定住の為に】

団員になって一緒に活動する事。若者が安心して家族を作り生活できるには、就職口が少ないこと

です。職場の多くはパートや臨時職員で回っています。それでは若者がここに残って頑張ろうとは思えない。後継者の長男だから親を見放せない優しい子が残っていると思います。

94.

【活動が続けてきてよかったこと】

収益を地域還元する事業や調査試験を具体的に展開できたこと

【若者の定住の為に】

- ・就労機会や就労場所の提供
- ・コミュニティビジネスを展開する為の場所と活用機能の調整
- ・イベント協力

95.

【活動が続けてきてよかったこと】

たくさんの人や団体と関わりを持つことで、様々な問題点が浮き彫りになってきた。ただ、高島市民が我慢強いので、なかなか問題が解決できない事もわかった。少しでも高島を良くしようと思っている方がたくさんいると分かってよかった。

【若者の定住の為に】

情報発信力、プレゼンテーションにおいては、若者に寄り添った活動が出来ると自負している。定住の問題点とそれに対する対応策を現在考えている。

96.

【活動が続けてきてよかったこと】

①インターネットで積極的に高島市のシティーセールスプロモーションを行った結果、市民及び市外の高島ファンの皆さんに高島市の魅力をアピール出来ていること。 ②インターネットにおけるヴァーチャルな交流からオフ会等を通じてリアルな交流が生まれていること(多くの市内外の人達を結びつけられた) ③インターネット関連の様々な技術(CMS、レスポンシブウェッジ、CGI、スマホアプリ開発する技術、SNS)やサービス(PPC、SNS、FB広告、ECサイト構築、運営)を実際に利用し、利用上のポイントとなるべき事項を習得できた。これからの技術・知識は、イベント集客、NPO活動資金調達、観光誘致、定住促進災害支援要請など、様々な場面において、今後、高島市の力となりうる。

【若者の定住の為に】

I. 移住を実現するためには、①観光で訪問する段階②その土地を気に入って時々訪問し、地元民と交流する段階③そして実際に移住に踏み切る段階が必要であると考えているが、①の段階の高島市に興味を持ってもらう為のシティーセールス面で力を発揮できるであろうネットワークを構築済みである。(但し、それをやるにはインターネット広告費は必要である)

II. ウェブサイト構築の新技术(CMS,レスポンシブル、スマホアプリ開発、U1)を保有しており、且

つネット集客技術（PPC、FB広告）もあることから、高島市を移住先としてネットでアピールする為の技術的なバックグラウンドを保有している。（移住者獲得目標数や何をアピールするのかが分かれば作戦は組み立てられる）

Ⅲ. SNSやメルマガ会員等で 12000 人を超えるネットワークを保有している。この内FBページを使い、例えば 10 万円の広告費を投入すれば 24 時間以内に日本全国の 15 万人以上の人々にメッセージを送ることが可能な仕組みができる。こうした近代的な手法をも使うことが移住者獲得競争で今後有効になると考えている。

Ⅳ. GOOGLEやYAHOOの検索を行った人にPPC広告を配信することによって移住に興味を持って情報を探している人たちを高島市の移住関連情報サイトに誘導することができる。このサイトで連絡先を登録してもらうことで、DMやメルマガなどで定期的なフォローが可能となる。

インターネットは何んでもできるとは考えていません。しかし移住を考えている人にピンポイントでアクセスし、高島市及び市の施設を知ってもらう努力は不可欠です。費用はかかっても紙媒体で集客をするより、インターネット広告を用いた方が、ある面では効果が大きいと考えています。ネットでたくさんの予備軍を集めてそれらの人々とリアルに出会って、高島市が求める人々を集めるような新しい手法を使うのも有効だろうと思います。特に若者は、新聞は読んでなくてもスマホでネットにアクセスしています。また、こうした業務を都会の広告業者に委託しても高島市の人々のメンタリティを知らないためうまくいかないかもしれない。地元の行政や市民、NPOが連携し試行錯誤で進めると良いと思う、そうした活動から地元の若者のICT技術力がUPし、起業化も不可能ではない。

97.

【活動続けてきてよかったこと】

市民活動団体間、団体と人、人と人などの繋がりを、事業をとおして作ることが出来てきたと感じている。団体への取材や相談対応の中から信頼関係が出来ている。

【若者の定住の為に】

市内には、市民による多くの魅力的な活動があることを高島の魅力の 1 つとして発信したい。移住定住希望者が関心のある組織や活動や人に繋がる為の支援をしていきたい。

98.

【活動続けてきてよかったこと】

人のつながりが財産になっている。地域を愛する心が醸成され、地域への誇りが地域で希薄になっているコミュニティを充実させている。

【若者の定住の為に】

観光で来られる方が地域の方と交流できるようにつないでいる。地域の人との交流が移住へつながっている。イベント等では青年協議会など若者も巻き込むようにしている。大学の合宿で来られた方が、卒業後にパートナーを連れて遊びに来る人もいる。何度も訪れてもらえる人とのつながりが大事。

【ヒアリング】

普通の納税者をイメージして呼び込んでほしい。通勤しながら高島で暮らすノーマルな市民が増えてほしい。自治会に入ることや市内で人とつながりを作るために市民活動の紹介等ができる「高島の暮らしコーディネーター」のような人が必要だと感じる。

100.

【活動が続けてきてよかったこと】

市内の 9 割の区・自治会に「福祉推進委員」が組織されてきたことや、市内の 3 割の区・自治会で、住民主体の見守りネットワーク活動が行われるようになったことで、安全安心の町づくりが少しずつ進んできたこと。

【若者の定住の為に】

例えば、介護の仕事のやりがいや魅力を発信することで、若者の雇用を創出できれば不足する介護人材の確保にも、若者定住にもメリットがあると考えます。

第4章 調査のまとめ

1. アンケート調査

アンケート調査で得られた結果は主に次のとおりである。

- ・主な活動分野では、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」「子どもの健全育成を図る活動」が多い。また、現在の活動分野では「子どもの健全育成を図る活動」次いで、「まちづくりの推進を図る活動」が多い。
- ・構成員数については、「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」が突出して多く、高島市文化協会が多くの構成員を持っている。次いで、「保健、医療または福祉の増進を図る活動」が多くの構成員を持っている。
- ・構成員の今後の見込みとしては、61%の団体で増やしたいと考えている。
- ・年齢層では、主な構成員の年齢は60歳代が最も多い。構成員の年齢層は50歳代、60歳代が多い。
- ・活動の範囲は、60%の団体が市内を活動範囲としている。
- ・主な活動のスタイルは「親睦・交流」が多い。当てはまる活動スタイルでは、「知識の向上やスキルの獲得」「講演会・講座・イベント」が多い。
- ・活動の頻度では、40%の団体がほぼ毎日活動している。
- ・活動の対象者は、「市民全般」が最も多く、次いで「小中学生」が多い。
- ・取り組む主な社会的課題では、「地域における子育て・子どもの健全育成」が多い。取り組む社会課題では「地域活力の低下」が最も多い。
- ・活動上、必要としている情報は「ボランティア・市民活動を希望する方の情報」が1位である。

2. ヒアリング調査

ヒアリング調査で強調された内容は以下のとおりである。

- ・仕事が必要である。
- ・林業は若手人材が必要
- ・高島市で暮らす魅力を発信してほしい
- ・具体的な移住のイメージが無い感じを受ける
- ・農地バンクのような仕組みがあるとよい
- ・有機農業の地域という特徴づくりが必要
- ・立地条件の厳しい農地で、獣害柵などを整備して農地希望者につなぐことは過疎対策にもなる

- ・空き家と職
- ・家の情報が重要
- ・保育園の情報は、お母さんからの情報を集めていることが多い
- ・高島のイベント（森林体験や川遊びの体験など）に何度か参加して移住を決められている
- ・高島らしい暮らし方のパンフレットなどには、普通の人も掲載してほしい
- ・子どもも地域での役割があり、地域とつながりがあること
- ・高島は絵本に出てくる自然の体験や生き物、農の風景が身近にあり、知識と実体験が直結する、贅沢な地域
- ・子育て世代の移住を増やすためにも学童保育所と指導員の充実は重要
- ・「高島は、子育てしやすい地域のイメージがある」「のんびりした地域」「地域の雰囲気が好き」「自然の中でのびのび育てたい」
- ・親世代ができなかった自然体験を子ども達にさせたいと思っている方が多いと感じる
- ・一部の子どもにとっては地域を越えて学校を選択できる方が安心して通学できる場合もある
- ・保育、福祉の分野では人手不足が恒常的にある
- ・移住して来た人から十分に意見を聞き、高島の魅力を発信するべき
- ・高島市内の各地で農業と連携して子どもの体験が取り組まれると、高島の特徴になる
- ・都市農村交流など出会いや交流を広げることが必要
- ・自治会に入ることや市内で人とつながりを作るために市民活動の紹介等をできる「高島の暮らしコーディネーター」のような人が必要

若者等定住のための応援態勢に関するアンケート調査 ご協力をお願い

日頃は、市の行政各般に格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、高島市では、少子高齢化や人口減少が進む中、市民が一体となって地域の担い手である若者や子育て世代を中心とした人材を招き入れ、共に地域社会を作っていくパートナーとして協調関係を築き、住みよいまちづくりに取り組んでいかなければなりません。

このため、若者等が高島市に移住またはＵターンなどにより居住しようと思えるような地域の支え合いや暮らしやすい環境づくりを市民活動として展開できないかと考えています。

つきましては、たかしま市民協働交流センター協議会の協力を得て、市内１００団体に対し、活動状況等についてお伺い致したく本調査を実施することと致しました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いします。

平成２７年１月

高島市役所政策部企画調整課

■ 本調査実施の上でのお願い

- ・ 本アンケート調査は、たかしま市民協働交流センター協議会に委託して高島市が実施するものです。
- ・ 設問には、貴団体のお考えに合う項目を選び、その番号を○で囲んでください。答えで「その他」を選んだ場合、（ ）の中に、具体的にご記入ください。
- ・ ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成２７年１月２０日（火）までに郵便ポストへご投函下さい。（切手は不要です。）
- ・ アンケート調査結果に基づき、さらに詳しくお話をお伺いしたい団体様には、別途ヒアリングをお願いすることがありますが、あらかじめご了承願います。

■ お問い合わせ

- ・ 内容などで、ご不明の点などがございましたら、下記までお問い合わせください。

高島市役所政策部企画調整課 担当：青谷、荒木 電話 ２５－８１１４

たかしま市民協働交流センター 担当：坂下 電話 ２０－５７５８

《若者の定住のための応援態勢に関するアンケート調査》

Q 1 貴団体名、所在地、ご回答者氏名、ご連絡先等をご記入ください。

貴団体名				
代表者氏名				
所在地	〒 ー			
ご連絡先	電話		FAX	
E-MAIL				
HPの有無	有 ・ 無	HPアドレス		
ご回答者氏名				
今後、たかしま市民協働交流センターからメールマガジンで支援情報等の情報提供をしてよろしいか。				可 ・ 不可
貴団体の活動内容（団体名、連絡先、活動の範囲・分野・スタイル、活動を続けてよかったこと）をウェブで公開してよろしいか。				可 ・ 不可

Q 2 貴団体では、どのような活動をされていますか。次のうち、最も中心的な活動に◎印を1つ、◎印以外にも活動されている分野に○印（いくつでも）を付けてください。また、将来取り組みたい分野もご記入ください。

活 動 分 野		現在	将来
1	保健、医療または福祉の増進を図る活動		
2	社会教育の推進を図る活動		
3	まちづくりの推進を図る活動		
4	観光の振興を図る活動		
5	農山漁村または中山間地域の振興を図る活動		
6	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動		
7	環境の保全を図る活動		

8	災害救援活動		
9	地域安全活動		
10	人権の擁護または平和の推進を図る活動		
11	国際協力の活動		
12	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動		
13	子どもの健全育成を図る活動		
14	情報化社会の発展を図る活動		
15	科学技術の振興を図る活動		
16	経済活動の活性化を図る活動		
17	職業能力の開発または雇用機会の拡充を支援する活動		
18	消費者の保護を図る活動		
19	N P O 法人等の活動支援		
20	上記 1 ～19 に当てはまらないその他の活動 (具体的に記入ください)		

Q 3 貴団体の構成員数をお書きください。

	人
--	---

N P O 法人の場合は、正会員数をお書きください。
任意団体の場合は、運営に関わっている方の数をお書きください。

Q 4 今後の構成員数の見込みについてお聞かせください。

ア 増やしたい イ 現状程度でよい ウ 縮小するが仕方がない

Q5 貴団体の活動されている構成員の年齢層で該当するものに○印を、最も多い年代は◎印を記入してください。

ア 30歳未満 イ 30歳代 ウ 40歳代 エ 50歳代
オ 60歳代 カ 70歳以上

Q6 貴団体の主な活動範囲はどこですか。（1つ選んでください。）

ア 区・自治会内 イ 小学校区内 ウ 中学校区内 エ 市内
オ 近隣の市町を含む範囲 カ 県内 キ 国内
ク 海外を含む範囲

（具体的な活動地域の地名をお書きください。）

Q7 貴団体の活動の内容やスタイルはどのようなものですか。次のうち、最も主なものに◎印を1つ、当てはまるもの全てに○印（いくつでも）を付けてください。

ス タ イ ル		◎／○
1	親睦・交流	
2	知識の向上やスキルの獲得	
3	啓発活動・キャンペーン	
4	相談窓口の開設	
5	講演会・講座・イベント	
6	ネットワークづくり	
7	無償のボランティア活動	
8	有償サービスの提供	
9	調査・研究・提案	

10	情報の収集や発信（情報誌の発行、ポータルサイトの運営など）	
11	コミュニティビジネスやソーシャル・ビジネス（開発・生産・物販・流通など） ＊地域的課題または社会的課題の解決を継続的に進めていくために、ビジネスの手法を用い収益を確保しながら課題解決に取り組む活動のこと	
12	その他（ ）	

Q 8 貴団体は、どれくらいの頻度で活動していますか。どれか1つに○印をつけてください。

- ア ほぼ毎日 イ 週に1～2回程度 ウ 月に1～2回程度
- エ 2か月に1～2回程度 オ 半年に1～2回程度
- カ 年に1～2回程度 キ その他（ ）

Q 9 貴団体の取り組みの対象は誰ですか。（誰に対するサービスや事業を行っておられますか。）当てはまるもの全てに○印を付けてください。

- ア 乳幼児 イ 小中学生 ウ 青少年（イを除く） エ 高齢者
- オ 障がい者 カ 外国人 キ 女性 ク 男性
- ケ 低所得者・生活困窮者 コ ひとり親 サ 貴団体会員
- シ その他（ ） ス 市民全般

Q10 現在取り組んでいる社会的な課題を教えてください。(最もあてはまるもの1つに◎印を、他のあてはまるもの全てに○印をお願いします。)

- ア 地域における子育て・子どもの健全育成 イ 高齢化の進展
- ウ 障がいをお持ちの方の暮らし エ 人口の減少・過疎化
- オ 地域活力の低下 カ 中心市街地の活性化 キ 景観の保全
- ク 観光 ケ 農地・森林の活用 コ 自然環境保護・地球温暖化防止
- サ 空き家の活用 シ ごみの減量化・美化活動
- ス 地域防災・災害時の支援 セ 地域防犯・安全
- ソ 外国人市民との共生・相互理解 タ 地域の伝統文化・芸能の伝承
- チ 人付き合いの希薄化 ツ 疾病予防・健康づくり・食育
- テ DVの防止 ト 男女共同参画の推進 ナ 人材・担い手育成
- ニ 定住促進 ヌ 会員の教養・芸術・スポーツの技能向上
- ネ 生涯学習の推進 ノ その他（ ） ハ 特にない

Q11 貴団体が、活動のために必要としている情報はどのようなものですか。必要としている順に3つまで選んでいただき、順位を記入してください。

順位を記入	項 目
	類似団体の活動情報
	ボランティア・市民活動を希望する方の情報
	他団体や企業からの助成情報
	行政機関（社会福祉協議会等も含みます。）の支援情報
	他団体（行政機関や企業含む。）のイベント情報
	情報は特に必要はない。
	その他（具体的に： ）

Q12 貴団体の活動が続けてきてよかったと思うことをご紹介します。

Q13 若者の定住を進めるために、貴団体でできることはありませんか。

以上でアンケートは終わりです。ご協力、誠にありがとうございました。

《若者の定住のための応援態勢に関するアンケート調査》

資料 若者等定住のための応援態勢に関するアンケート調査 単純集計

Q 2. 貴団体では、どのような活動をされていますか？次のうち最も中心的な活動に◎を1つ、◎印以外にも活動されている分野に○印（いくつでも）を付けてください。また、将来取り組みたい分野についてもご記入ください。

n : 80

活 動 分 野		現在 ◎	現在 ○	将来 ◎	将来 ○
1	保健、医療または福祉の増進を図る活動	16	8	1	0
2	社会教育の推進を図る活動	2	19	0	4
3	まちづくりの推進を図る活動	6	22	3	8
4	観光の振興を図る活動	3	18	0	5
5	農山漁村または中山間地域の振興を図る活動	8	10	0	3
6	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動	5	19	0	7
7	環境の保全を図る活動	10	16	0	4
8	災害救援活動	1	6	0	5
9	地域安全活動	1	9	0	4
10	人権の擁護または平和の推進を図る活動	0	8	0	1
11	国際協力の活動	2	1	0	1
12	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	0	5	0	4
13	子どもの健全育成を図る活動	16	23	1	9
14	情報化社会の発展を図る活動	0	3	0	3
15	科学技術の振興を図る活動	0	0	0	1
16	経済活動の活性化を図る活動	0	5	0	5
17	職業能力の開発または雇用機会の拡充を支援する活動	0	8	0	3
18	消費者の保護を図る活動	0	3	0	0
19	NPO法人等の活動支援	1	8	0	1
20	上記1～19に当てはまらないその他の活動 (具体的にご記入ください)	5	2	0	0

※「現在」の活動分野で選んでいるものと「将来」の活動分野で重なっているものは除外して集計している。

※回答に1つのみ○印を付けている団体は、◎印として数えている。

複数に○印を付けながら、◎印をつけていない団体については活動内容から推測して調査者が○印の内の一つに◎印を付けた。

Q 3. 貴団体の構成員数をお書きください。(NPO法人の場合は、正会員数をお書きください。任意団体の場合は、運営にかかわっている方の数をお書きください)

(人)

	n	最小値	最大値	平均値	中央値
構成員数	83	1	1450	63.9	22

(外れ値を除外した平均値 47.5)

Q 4. 今後の構成員数の見込みについてお聞かせください。

n : 82

(団体)

ア. 増やしたい	イ. 現状程度でよい	ウ. 縮小するが仕方がない
50	32	0

Q 5. 貴団体の活動されている構成員の年齢層で該当するものに○印を、最も多い年代は◎を記入してください。

n : 82

	ア. 30歳未満	イ. 30歳代	ウ. 40歳代	エ. 50歳代	オ. 60歳代	カ. 70歳以上
◎	9	8	11	8	21	11
○	13	19	29	36	36	17

※回答に1つのみ○を付けている団体は、その年齢層を最も多い年齢◎として数えている。
複数に○付けながら、◎をつけていない団体も“n”に加えている。

Q 6. 貴団体の主な活動範囲はどこですか。(1つ選んでください)

n : 82

地域	
ア. 区・自治会内	2
イ. 小学校区	3
ウ. 中学校区	9
エ. 市内	49
オ. 近隣の市町を含む範囲	8
カ. 県内	6
キ. 国内	4
ク. 海外を含む範囲	1

具体的な活動地域の地名をお書きください。(市内旧町名のみは除外)

- ・活動は市内、顧客は市外、県外
- ・彦根・守山・大津市内
- ・今津東コミセン
- ・東京、京都
- ・安曇川市内。関西・関東
- ・海津大崎
- ・大阪子供チアリーダー大会に毎年参加しています
- ・活動範囲は市内全域ですが、各団が存在するのはマキノ町、今津町、新旭、朽木
- ・高島市、大津市、草津市、長浜市
- ・県内、新潟、福島、愛知、静岡、岡山、兵庫、宮城、京都、大阪、広島、福井、石川、岐阜、三重、熊本、徳島
- ・今津駅東口より200メートルとその付近
- ・森林公園くつきの森
- ・新旭、湖岸、桜並木
- ・高島市・大津市・長浜市・福井など
- ・新旭北小学校・将来は市内へ拡大
- ・清水山城 新旭町
- ・高島市・大津市・長浜市
- ・活動範囲は市内なれど、日本全国に向けて当市の情報を発信している

Q 7. 貴団体の活動の内容やスタイルはどのようなものですか。次のうち、最も主なものに◎印を1つ、当てはまるもの全てに○印（いくつでも）を付けてください。

n : 8 0

スタイル		◎	○
1	親睦・交流	2 5	2 9
2	知識の向上やスキルの獲得	4	3 5
3	啓発活動・キャンペーン	2	2 1
4	相談窓口の開設	3	1 2
5	講演会・講座・イベント	1 1	3 4
6	ネットワークづくり	4	2 3
7	無償のボランティア活動	9	2 9
8	有償サービスの提供	6	1 8
9	調査・研究・提案	0	1 9
1 0	情報の収集や発信（情報誌の発行、ポータルサイトの運営など）	2	2 2
1 1	コミュニティビジネスやソーシャルビジネス（開発・生産・物販・流通など）	6	8
1 2	その他	8	2

その他の内容

- ・移住促進
- ・若者の定住、集落の活性化を進めようとする項目が無いのでチェックしない
- ・保育
- ・子どもや中高生の料理実習
- ・障害者総合支援法に基づく障害者福祉サービス
- ・障がい児者への理解を得るための活動
- ・社会福祉
- ・障がい児者学童、おもちゃ図書館活動 地域活動支援事業の一環
- ・制度による事業
- ・湖岸の美化活動、川の生態調査、3R運動の推進、エコクッキングの習得

※回答に1つのみ○印を付けている団体は、◎印として数えている。

複数に○印を付けながら、◎印をつけていない団体については活動内容から推測して調査者が○印の内の一つに◎印を付けた。

Q 8. 貴団体は、どれくらいの頻度で活動していますか。どれか1つに○印を付けてください。

n : 8 1

頻度	
ア. ほぼ毎日	3 2
イ. 週に1～2回程度	1 7
ウ. 月に1～2回程度	2 4
エ. 2か月に1～2回程度	3
オ. 半年に1～2回程度	2
カ. 年に1～2回程度	1
キ. その他	2

その他 ・各クラブによって違う ・週に3～4回程度

Q 9. 貴団体の取り組みの対象は誰ですか。(誰に対するサービスや事業を行っておられますか。) 当てはまるもの全てに○印を付けてください。

n : 8 1

対象	
ア. 乳幼児	1 9
イ. 小中学生	3 8
ウ. 青少年（イを除く）	2 9
エ. 高齢者	3 1
オ. 障がい者	2 8
カ. 外国人	9
キ. 女性	3 0
ク. 男性	2 8
ケ. 低所得者・生活困窮者	6
コ. ひとり親	7
サ. 貴団体会員	2 0
シ. その他	1 2
ス. 市民全般	4 2

その他

- ・農地を持たない人
- ・消費者全般
- ・里子・養護施設入所の子供、国道 161 号線を通る人、ホームレスの人、日本縦断している人、学生の人
- ・ア～ウにかかる保護者全て
- ・特に、不登校、ひきこもり
- ・大災害時の被災者支援(阪神淡路大震災以後の災害)
- ・市外・県外の一般の方
- ・観光客等、町を訪れる人
- ・対象相手は限定されません
- ・市外の高島市ファン全般

Q 10. 現在取り組んでいる社会的な課題を教えてください。(最もあてはまるもの 1 つに◎印を、他のあてはまるもの全てに○印をお願いします)

n : 8 2

社会的課題	◎	○
ア. 地域における子育て・子どもの健全育成	1 5	1 9
イ. 高齢化の進展	6	1 7
ウ. 障がいをお持ちの方の暮らし	7	9
エ. 人口の減少・過疎化	3	1 4
オ. 地域活力の低下	3	2 8
カ. 中心市街地の活性化	1	5
キ. 景観の保全	3	1 1
ク. 観光	3	1 7
ケ. 農地・森林の活用	1	1 7

コ. 自然環境保全・地球温暖化防止	3	1 8
サ. 空き家の活用	1	6
シ. ごみの減量化・美化活動	1	7
ス. 地域防災・災害時の支援	3	5
セ. 地域防犯・安全	0	4
ソ. 外国人市民との共生・相互理解	1	2
タ. 地域の伝統文化・芸能の伝承	2	1 6
チ. 人付き合いの希薄化	2	1 8
ツ. 疾病予防・健康づくり・食育	3	1 1
テ. DVの防止	0	3
ト. 男女共同参画の推進	0	7
ナ. 人材・担い手育成	4	1 3
ニ. 定住促進	0	7
ヌ. 会員の教養・芸術・スポーツの技能向上	6	6
ネ. 生涯学習の推進	1	9
ノ. その他	4	1
ハ. 特になし	3	0

その他

- ・独居老人の声かけ
- ・主に視覚障害者の方へ音に寄る情報提供
- ・青少年教育
- ・就労支援
- ・家族関係の希薄化

※回答に1つのみ○印を付けている団体は、その課題を最も多い◎印として数えている。

複数に○印を付けながら、◎印をつけていない団体については活動内容から推測して調査者が○印の内の一つに◎印を付けた。

Q11. 貴団体が、活動のために必要としている情報はどのようなものですか。必要としている順に3つまで選んでいただき、順位を記入してください。

n : 7 8

項目	1位	2位	3位
類似団体の活動情報	2 0	1 0	9
ボランティア・市民活動を希望する方の情報	2 3	1 2	8
他団体や企業からの助成情報	1 3	1 4	9
行政機関（社会福祉協議会等も含む）の支援情報	1 8	1 3	5
他団体（行政機関や企業含む）のイベント情報	8	3	1 1
情報は特に必要はない	4	0	2
その他	8	0	0

その他

- ・会員の意見により活動内容を決めています。
- ・働きたい生活介護者の仕事
- ・自分達の活動が精一杯でネットワークを通じた情報に目を通すことに追われています。
- ・情報発信する為の機関等の情報
- ・国内・アウトドア情報
- ・琵琶湖の水質、生物等水環境に係る情報
- ・地域の生活、福祉課題、生活支援のニーズ

※複数の項目に○印を付けている団体については、全て1位としてカウントした。